

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

①「現代社会と女性」
外部講師を精選するとともに、学科・コースの担当教員の協力を得て、スムーズな運営ができた。また、「ガイダンス」、「キャリアについて考える」、「人権について考える」等の大きなテーマのもとに授業構成を考えて実施した。

②「生涯学習論」
「長崎」に焦点を当てた授業を中心に展開する1年目であった。改善の余地はあるものの、継続して実施したい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①「現代社会と女性」
前年度と大きな変更はない。15回の構成は、前年度と同様に、(1)「ガイダンス機能」、(2)「キャリアについて考える」、(3)「人権について考える」を柱とする。

②「生涯学習論」
「長崎」を意識した授業構成とする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①「現代社会と女性」
・1年次：初年次教育、ガイダンス機能、キャリア形成、人権教育を柱として11回実施する。
・2年次：キャリア、生き方等をテーマに4回実施する。

②「生涯学習論」
・「長崎」をテーマにした授業構成とし、長崎新聞社、長崎市役所等に外部講師を依頼する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①「現代社会と女性」
・1年次：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1回は休校となり、課題で対応した。予定した授業ができなかったことから、前年度に比べ満足度が低くなった。 ・2年次：前年度は栄養士コースの満足度が低かったが、今年度は改善した。

②「生涯学習論」
・幼児教育学科2名の評価が低かったが、生活創造学科の評価は前年度よりわずかであるがポイントアップした。報告会に向けて学生たちも資料作成によく努力した。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学習時間 | 全体的な満足度 |
|---------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 現代社会と女性 | 19S | 4.5 | 4.4 | 4.4 | 4.3 | 16.1分 | 4.5 |
| 現代社会と女性 | 20S | 3.0 | 3.3 | 4.1 | 3.8 | 20.5分 | 3.5 |
| 現代社会と女性 | 19L | 4.6 | 4.5 | 4.4 | 4.6 | 24.8分 | 4.5 |
| 現代社会と女性 | 20L | 4.0 | 4.0 | 4.2 | 4.3 | 25.7分 | 3.9 |
| 現代社会と女性 | 19Y | 4.2 | 4.2 | 4.2 | 4.3 | 17.3分 | 4.1 |
| 現代社会と女性 | 20Y | 3.9 | 3.9 | 4.0 | 3.8 | 31.3分 | 3.8 |
| 生涯学習論 | 19S | 4.2 | 4.2 | 4.5 | 4.3 | 35.5分 | 4.5 |
| 生涯学習論 | 19L | 4.9 | 4.7 | 4.6 | 4.6 | 47.1分 | 4.4 |
| 生涯学習論 | 19Y | 3.5 | 3.5 | 3.5 | 3.5 | 45.0分 | 3.5 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評価 | | | | | | | | | | | |
|---------|------|------|------|------|----|-------|----|-------|----|-------|---|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 現代社会と女性 | 19S | 必修 | 29 | 77.0 | 4 | 13.8% | 12 | 41.4% | 6 | 20.7% | 6 | 20.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 現代社会と女性 | 19L | 必修 | 29 | 81.0 | 4 | 14.3% | 9 | 32.1% | 14 | 50.0% | 1 | 3.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 現代社会と女性 | 19Y | 必修 | 104 | 81.5 | 3 | 2.9% | 67 | 65.0% | 27 | 26.2% | 4 | 3.9% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 生涯学習論 | 19S | 選択必修 | 11 | 85.1 | 4 | 36.4% | 4 | 36.4% | 2 | 18.2% | 1 | 9.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 生涯学習論 | 19L | 選択必修 | 7 | 85.7 | 2 | 28.6% | 5 | 71.4% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 生涯学習論 | 19Y | 選択必修 | 5 | 36.0 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 2 | 50.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

【アクティブラーニング】
「現代社会と女性」の授業においては、受講者数（学年必修科目）が多く難しかったが、「生涯学習論」では取り入れて行うことができた。

【オフィスアワー】
・学長室を訪問しての相談は1件あった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①「現代社会と女性」
・大きな変更点はないが、学生にとって役立つ内容、引き付けて講話ができる外部講師を選定したい。

②「生涯学習論」
・次年度からは「長崎観光概論」に衣替えする。学生にとって為になる授業内容、授業方法としたい。

| 令和 2 年 前 期 | | 授業評価報告書 | | 氏名 | 太田 美代 | | | | | | | | | | | |
|---|------|---------|--------|---------|--------|---------|---------|-------|----|-------|---|-------|---|------|--------|------|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 今年度より担当 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○専門職としての基礎的な力を養うため、栄養士実力認定試験のA認定60%以上を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○実習演習の授業において、グループや個人での自己評価の場面をつくり、認め、励ますことを通して学びに向かう主体的な態度を育成する。 ○「給食管理論」の昨年度の実績は55.7%。機会をとらえて栄養士実力認定試験の過去問にあたる、理解不十分な分野を把握して指導を行う。1年生に対しても教材研究を丁寧に行い、授業のポイントを復習できるワークシートを作成して授業にあたる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・実習系の科目に関しては満足度が高かったが、講義については学習内容が多く、専門的な基礎知識であるにも関わらず、その重要性を十分に認識させることができなかった。学生の実態に対して教科書のボリュームがあるため、次年度は内容を絞って教授する必要がある。講義の中で理解が不十分だった点については、後期の実習を通して理解を深めることができるようフォローしていく。 ・1年生のワークシートに関しては、スライドと同じ内容のほうが分かりやすいかと考え、途中でスライドを中心としたプリント配布に切り替えたが、アンケートの結果最初のワークシートの形式のほうが書きやすかったという感想だったため、次年度はワークシートとスライドを分けて作成したい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 | | | | | | | | | |
| 卒業研究 | 19S | 4.8 | 4.7 | 4.7 | 4.7 | 80.0分 | 4.7 | | | | | | | | | |
| 学外実習総合演習 | 19S | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 56.8分 | 4.4 | | | | | | | | | |
| 栄養教育指導論実習Ⅱ | 19S | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 48.2分 | 4.3 | | | | | | | | | |
| 給食経営管理論 | 20S | 3.6 | 3.5 | 3.8 | 3.5 | 54.5分 | 3.0 | | | | | | | | | |
| 給食経営管理論実習Ⅱ | 19S | 4.7 | 4.8 | 4.7 | 4.7 | 52.9分 | 4.6 | | | | | | | | | |
| 長崎食育学 | 20S | 4.1 | 4.2 | 4.1 | 4.3 | 37.1分 | 4.3 | | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 栄養教育指導論実習Ⅱ | 19S | 選択 | 29 | 76.6 | 3 | 10.3% | 12 | 41.4% | 10 | 34.5% | 3 | 10.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 給食経営管理論 | 20S | 必修 | 23 | 77.3 | 7 | 30.4% | 6 | 26.1% | 4 | 17.4% | 5 | 21.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 給食経営管理論実習Ⅱ | 19S | 選択 | 17 | 85.1 | 4 | 23.5% | 10 | 58.8% | 2 | 11.8% | 1 | 5.9% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 長崎食育学 | 20S | 必修 | 23 | 83.0 | 9 | 39.1% | 10 | 43.5% | 3 | 13.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・実習系の科目については、計画的に実施することができたが、講義を中心とする「給食経営管理論」では、学生が主体的に取り組む場面を設定する機会があまりなかった。 ・計算など基礎学力が十分身につけていない学生の相談に応じ、個別対応を行っているが、他にも個別指導が必要な学生がいるので、声掛けをしたり、グループワークで教えあうことができる時間を設けたりして進めていく。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・給食経営管理論については、仕上がったときにノートの代わりとなるワークシートを作成して理解を助ける。学生に説明させる場面を作り、主体的に学習に臨む態度を養う。 ・実習系の科目については、現行の方針を継続しつつ、提出物の作成に苦慮する学生に対しては、個別指導で対応する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

講義科目で実施している確認問題プリントについては学生から実施したほうがいいという意見が多かったため、今後も続けていきたい。栄養学 I に関しては、評価がB・Cの学生が多かった。内容的に苦手意識を持った学生が多いことも原因であるが、私自身の知識不足や教え方についても問題があると考えている。

卒業研究については学生の授業評価アンケートの結果がやや低かった。研究に関しては私自身も手探りな部分が多かったことが反省点である。研究内容・活動内容の見直しや、卒研生への関わり方等、検討しなければならない。

学外実習 I・学外実習総合演習に関しては実習先からの課題について学生自身も積極的に教員に質問やアドバイスを求めている様子が伺えた。

長崎食育学に関しては、学生が積極的に授業を受けているようだった。担当回では時間がやや押したため、時間に余裕が持てるような実習内容を検討したい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

栄養学 I に関してはパワーポイント資料の修正および内容の見直しを行い、より理解しやすい授業を実施できるよう努める。また、学生が質問に来やすい雰囲気を作り心掛けることで、全体的な成績向上を目指す。

卒業研究に関しては、今年度よりコース共通の取り組みを行うこととしている。卒研生全員が役割を持って活動できるようにしたい。

学外実習・学外実習総合演習に関しては、実習先からの課題について積極的に助言等をしていきたい。

長崎食育学に関しては今年度の担当回は新たなテーマで行うこととなるため、授業内容・方法等について検討する。

食品学基礎実験に関しては今年度より担当するため、授業内容の検討を行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

今年度も引き続き、講義科目においては分野毎の確認プリントの実施、出席表を兼ねた質問用紙の配布を行った。

卒業研究については、野菜を使ったレシピの発信と公開講座開催へ向けた準備を行った。

食品学基礎実験に関しては、昨年度から引き継いだ授業内容に新たなものを付け加えて実施し、終了後に授業内容の改善を行うこととした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

講義科目の質問用紙による質問への対応については、多くの学生が少しでも疑問に思ったことを記載しておりその都度こちらから全体に向けて解答を行うことが出来た。しかしながら、教科書に記載されている内容であっても気軽に質問するという傾向が見受けられ、学生自身が自分で調べて解決する能力を高めるとい点においてはあまり効果的ではないと感じた。また、栄養学 I、食品衛生学については、成績分布においてBおよびCの学生が多く、授業評価アンケートにおいても理解度が3.9となっている。4月はコロナウイルスの影響により長期休講となる等、スタート部分での指導が不十分であったことも原因と考えられるが、教え方や学生のモチベーションの上げ方などを検討していく必要があると考える。特に食品衛生学に関してはやや専門的な内容であるが、今年度から開講時期が1年前期に変更になったため難易度が高いと感じてしまったことも予想される。食品学基礎実験に関しては、入学して初めての実験・レポート作成ということもあり、もう少し時間をかけて丁寧な指導をしなければならないと感じた。また食品学 I の進捗具合との調節が非常に難しく、学生が基礎知識が不十分のまま実験をするということも多々あったため、来年度改善したい。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|---------------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| | | | | | | | |
| 学外実習総合演習 | 19S | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 56.8分 | 4.4 |
| 栄養学 I (基礎栄養学) | 20S | 4.3 | 4.5 | 4.2 | 3.9 | 55.7分 | 4.4 |
| 長崎食育学 | 20S | 4.1 | 4.2 | 4.1 | 4.3 | 37.1分 | 4.3 |
| 食品学基礎実験 | 20S | 4.4 | 4.4 | 4.4 | 4.0 | 92.7分 | 4.2 |
| 食品学実験(調理科学含む) | 19S | 4.9 | 4.9 | 4.4 | 4.7 | 85.7分 | 4.9 |
| 食品衛生学 | 20S | 4.3 | 4.4 | 4.2 | 3.9 | 57.3分 | 4.0 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|---------------|------|------|------|------|-----|-------|----|-------|---|-------|---|-------|---|------|-------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W(脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 栄養学 I (基礎栄養学) | 20S | 必修 | 23 | 68.0 | 2 | 8.7% | 2 | 8.7% | 9 | 39.1% | 9 | 39.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 長崎食育学 | 20S | 必修 | 23 | 83.8 | 9 | 39.1% | 10 | 43.5% | 3 | 13.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 食品学基礎実験 | 20S | 選択 | 23 | 82.1 | 9 | 39.1% | 5 | 21.7% | 8 | 34.8% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 食品学実験(調理科学含む) | 19S | 選択 | 8 | 79.6 | 5 | 62.5% | 1 | 12.5% | 1 | 12.5% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 食品衛生学 | 20S | 必修 | 23 | 71.9 | 2 | 8.7% | 7 | 30.4% | 4 | 17.4% | 9 | 39.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングについては未実施。オフィスアワーについてはその時間に質問にくる学生はいなかった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

栄養学 I、食品衛生学については、授業内容および授業方法の見直しを行う。

食品学基礎実験については、実験器具の扱い方やレポートの作成方法をより丁寧に指導するとともに、食品学 I との連携を取りたい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

調理学…今年度より新規担当
 調理学実習1…筆記試験においては高得点獲得者が多く、調理に関する基礎的な知識は身についたように考えられる。しかしながら実技試験においては全体に点数が低く、今後も更なる細かい指導や反復練習が必要だと感じられた。
 子どもの食と栄養…筆記試験においては満点をとる学生がいる一方、理解を示していない学生もあり、今後の授業法を変える必要があると感じた。実習においては、人数に対し狭い調理室で行わざるを得ないので、きめ細やかな実習が行えない部分もあったと感じている。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

調理学…調理学の基礎的知識を習得させる。
 調理学実習1…調理学で学んだ知識を実践を踏まえて定着させる。基礎的な調理技術を習得させる。
 子どもの食と栄養…栄養に関する基礎的な知識を習得させる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

調理学…教科書を中心にプリンやスライドを用いて授業を行い、調理学に関する知識の習得を確認するための筆記試験を実施した。
 調理学実習1…調理の基礎となる調理器具や食材の扱い方から教え始め、包丁の使い方や動かし方を細かく示し練習させた。調理学の知識を実践・確認するための、調理学実験に近い実習（ゼリー濃度の違いによる変化）を行った。技術習得確認のための実技試験や、調理に関する知識の習得を確認するための筆記試験を実施した。
 子どもの食と栄養…スライドやプリントを用い、食と栄養に関する基礎的知識習得の為の授業を行い、筆記試験を実施した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

調理学…今年度が1年目の授業ということもあり、ベース配分が思うようになかった。学生からの、『教科書を読むだけの部分があった』言う意見を参考に、授業の進め方を改善する必要がある。
 調理学実習1…前年度よりも教える内容を絞り、ゆっくりと授業を進めたため、一部学生には物足りないと感じられた部分があった。
 子どもの食と栄養…授業の内容や進め方は、前年度と同様に行った。しかし定期試験の問題のレベルを上げたため、前年度よりも成績の差が顕著になった。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|-----------------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 卒業研究 | 19S | 4.7 | 4.7 | 4.7 | 4.7 | 25.7分 | 4.4 |
| 子どもの食と栄養 | 19Y | 4.1 | 4.0 | 4.2 | 3.9 | 35.6分 | 3.9 |
| 学外実習総合演習 | 19S | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 56.8分 | 4.4 |
| 調理学 | 20S | 4.1 | 4.1 | 4.2 | 4.0 | 55.9分 | 4.2 |
| 調理学実習1（調理実験を含む） | 20S | 4.4 | 4.4 | 4.3 | 4.4 | 46.4分 | 4.4 |
| 長崎食育学 | 20S | 4.1 | 4.2 | 4.1 | 4.3 | 37.1分 | 4.3 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評価 | | | | | | | | | | | |
|-----------------|------|------|------|------|----|-------|----|-------|---|-------|----|-------|---|------|-------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W(脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 調理学 | 20S | 必修 | 23 | 68.2 | 1 | 4.3% | 7 | 30.4% | 4 | 17.4% | 10 | 43.5% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 調理学実習1（調理実験を含む） | 20S | 必修 | 23 | 80.2 | 2 | 9.1% | 9 | 40.9% | 9 | 40.9% | 2 | 9.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 長崎食育学 | 20S | 必修 | 23 | 83.8 | 9 | 39.1% | 10 | 43.5% | 3 | 13.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

調理学…授業中スライドを用い、解説を行った。授業後に不明点を質問する学生もいた。
 調理学実習1…授業中モニターを使い、手元や鍋の中の様子を学生に見せながら進めている。
 子どもの食と栄養…授業中スライドを用い説明したり、動画を見せたりした。試験前に集中して、質問をしに訪れていた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

調理学…授業のベース配分を見直し、学生が復習しやすいような資料を作成する。
 調理学実習1…基本的実技・技術の習得率をより高めるため、実技練習の時間を多くとらせる。
 子どもの食と栄養…穴埋め式の資料などを作成し、より簡潔にポイントを絞った授業を行う。定期試験の内容を見直す。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

① 下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。(栄養教育指導論Ⅰ)
 ② 下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。(臨床栄養学Ⅱ)
 ③ 献立展開を苦手とする学生を減らす(ゼロを目指す)(臨床栄養学実習)
 ④ 実習先評価の向上。(学外実習Ⅰ)
 ⑤ 今年度からの担当の為前年度の課題は不明(長崎食育学)

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

① 栄養指導に必要な基本的事項の修得を目指す(栄養教育指導論Ⅰ)
 ② 各種疾患の概要とその食事療法について理解することを目指す(臨床栄養学Ⅱ)
 ③ 各種治療食の調理方法の修得とすると同時に、献立展開の技術習得を目指す(臨床栄養学実習)
 ④ 学外実習の円滑な実施を目指す(学外実習Ⅰ)
 ⑤ 外部講師を多く招いて実施する長崎食育学の円滑な実施(長崎食育学)

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

① 授業内容の見直し(重要部分を重点的に指導)。また栄養士実力認定試験過去問の解説導入。(栄養教育指導論Ⅰ)
 ② 授業内容の見直し(重要部分を重点的に指導)。また栄養士実力認定試験過去問の解説導入。(臨床栄養学Ⅱ)
 ③ 学生が苦手とする献立展開については同じ内容のレポートの繰り返し添削を実施(臨床栄養学実習)
 ④ 学外実習の意義や目的を繰り返し説明した(学外実習Ⅰ)
 ⑤ 調理実習の増加や外部講師の変更など授業内容の一部見直しを実施

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

① 再試験受験者は減少したが、学力に問題のある学生は一定数存在しており、これらの学生の指導に苦慮した。(栄養教育指導論Ⅰ)
 ② 臨床栄養学Ⅰに比べ成績不良者は減少した。今後は学習に取り組まない学生への指導が課題。(臨床栄養学Ⅱ)
 ③ 今年度もレポート提出状況が悪い学が存在した。レポートへ取り組む姿勢は個人差が存在。(臨床栄養学実習)
 ④ 新型コロナウイルスの影響の為、学外での実習は中止し、学内での指導に変更した。(学外実習Ⅰ)
 ⑤ 新型コロナウイルスの影響の為、2回分の授業が変更となり、自宅での郷土料理試作となった。それ以外はうまくいったと考えられる。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | | 学生の理解度 | | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|-----------------|------|--------|--------|---------|-----|--------|-----|---------|---------|
| | | | | 人 | % | 人 | % | | |
| 卒業研究 | 19S | 4.6 | 4.6 | 4.9 | 4.6 | 34.3分 | 4.6 | | |
| 学外実習総合演習 | 19S | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 56.8分 | 4.4 | | |
| 栄養教育指導論Ⅰ | 20S | 4.0 | 4.0 | 3.9 | 3.8 | 40.0分 | 3.9 | | |
| 臨床栄養学Ⅱ(食事療法の原理) | 19S | 4.7 | 4.7 | 4.5 | 4.4 | 52.5分 | 4.6 | | |
| 臨床栄養学実習 | 19S | 4.8 | 4.8 | 4.6 | 4.7 | 53.6分 | 4.6 | | |
| 長崎食育学 | 20S | 4.1 | 4.2 | 4.1 | 4.3 | 37.1分 | 4.3 | | |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評価 | | | | | | | | | | | |
|-----------------|------|------|------|------|----|-------|----|-------|----|-------|---|-------|---|------|-------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W(脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 栄養教育指導論Ⅰ | 20S | 必修 | 23 | 74.0 | 3 | 13.0% | 9 | 39.1% | 5 | 21.7% | 5 | 21.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 臨床栄養学Ⅱ(食事療法の原理) | 19S | 選択 | 29 | 72.7 | 3 | 10.3% | 8 | 27.6% | 10 | 34.5% | 7 | 24.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 臨床栄養学実習 | 19S | 選択 | 29 | 80.0 | 10 | 34.5% | 11 | 37.9% | 3 | 10.3% | 4 | 13.8% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 長崎食育学 | 20S | 必修 | 23 | 83.8 | 9 | 39.1% | 10 | 43.5% | 3 | 13.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

栄養教育指導論Ⅰや臨床栄養学Ⅱなどの講義科目においてはアクティブラーニングは実施できなかった。
 学内で実施した学外実習Ⅰでは、集団栄養指導等で集中的にグループワークが実施できたと思われる。
 オフィスアワーに関しては可能な限り随時学生の相談を実施した。2年生は学外実習、就職活動、定期試験対策、非常勤講師担当科目に関する質問、学友自治会活動の悩み等があり、多くの学生が質問や相談に訪れた。1年生に関しては2年生ほど研究室を訪れない状況で、学生生活や定期試験に関する相談や質問が見られた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

① 成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。(栄養教育指導論Ⅰ)
 ② 成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。(臨床栄養学Ⅱ)
 ③ 献立展開を苦手とする学生を減らす(ゼロを目指す)(臨床栄養学実習)
 ④ 実習先評価の向上。(学外実習Ⅰ)
 ⑤ 一部授業内容の見直し(講師の変更等を含めて)(長崎食育学)

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

学生による授業評価は担当した全ての科目で、全ての評価項目が5点満点中4.1~4.5であり、特に問題はなかったと思われる。授業終了前の短い時間を利用して、疑問点があれば書いて提出させ、次の授業時に全員に向かって回答したところ、質問に対する誠実な対応に好印象を持ってくれたのか、今年度は質問数が例年より多く、授業内容に興味を示してくれたので、今後も続けていきたい。

昨年度の課題でもあった、欠席日数の多い学生への対応については、できる限り声掛けをするように試みたが、本年度も同様の問題が残った。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 秘書実務2では、秘書の学びの総仕上げとして、敬語の知識と運用力を上げる取り組みを行う。
- (2) 秘書概論では、今年度同様後半の授業時にアクティブラーニングの手法を取り入れ、問題解決力、発信力を育成する。
- (3) マナー学では、昨年度同様授業内容の定着を図るため、授業内容の日常での実践を促し、質問しやすい環境づくりを行う。
- (4) ゼミナールでは、学生とのコミュニケーションを密に行い、問題があれば早めに把握できるようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1) 秘書実務2では、毎回の授業時に敬語の課題を与え、敬語の仕組みを筆記と口頭(1回に2名程度)で説明させた。
- (2) 秘書概論では、後半の授業でグループによるプレゼンテーションを実施した。
- (3) マナー学では、マナー実践目標シートを利用し、授業内容のマナーを日常的に実践するよう促し、毎回の授業資料に質問欄を設け、質問しやすい環境作りを行った。
- (4) ゼミナールでは、教員から声掛けをして学生とのコミュニケーションを図った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価の結果は、4.0~4.7点で、特に問題はなかったと思われる。但し、マナー学のみを見れば、点数評価をしている全項目の平均点が4.04点であり、昨年度より0.28点、教員の教え方は4.0点で0.5点減少していた。授業法で昨年度から変更したのは、コロナ感染症対策のため、グループディスカッション等学生同士の学び合いの時間を減らした点である。来年度は、状況に応じて学生同士の学び合いの時間を増やしていきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|-------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| ゼミナール | 19L | 4.6 | 4.6 | 4.5 | 4.6 | 33.8分 | 4.5 |
| マナー学 | 20S | 4.1 | 4.0 | 4.1 | 4.0 | 36.8分 | 4.0 |
| 秘書実務2 | 19L | 4.7 | 4.6 | 4.4 | 4.4 | 57.8分 | 4.5 |
| 秘書概論 | 20L | 4.4 | 4.2 | 4.3 | 4.0 | 88.7分 | 4.2 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評価 | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|----|-------|----|-------|----|-------|---|------|---|------|-------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W(脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| マナー学 | 20S | 必修 | 23 | 80.8 | 8 | 34.8% | 9 | 39.1% | 4 | 17.4% | 1 | 4.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 秘書実務2 | 19L | 必修 | 29 | 78.5 | 3 | 10.7% | 10 | 35.7% | 15 | 53.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 秘書概論 | 20L | 必修 | 23 | 84.9 | 9 | 39.1% | 10 | 43.5% | 3 | 13.0% | 1 | 4.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

コロナ感染症の対策を講じた上で、昨年度より回数は減ったがアクティブラーニングの手法を交えた授業を行った。

オフィスアワーは、指定した時間の他、在室時は随時可としていたので、教員在室時には指定の時間に関係なく訪問があった。内容は、授業内容についてであった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 秘書実務2では、秘書の学びの総仕上げとして、敬語の知識と運用力を上げる取り組みを来年度も継続して行う。
- (2) 秘書概論では、後半の授業時にプレゼンテーションを行わせ、情報を活用する力、発信力を育成する。
- (3) マナー学では、状況に合わせて、できる限りグループディスカッションやペアワークを増やす。
- (4) ゼミナールでは、毎回の授業の最後にメンバー全員に振り返りと次回までにやることの確認を口頭で行ったが、メンバー各自が責任感を持つようにシートを作成し、記入させるようにする。

| 令和 2 年 前 期 | | 授業評価報告書 | | 氏名 | 濱口 なぎさ | | | | | | | | | | | |
|--|------|---------|--------|---------|--------|--------|-----|---------|---------|-------|---|-------|---|------|--------|------|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生によるアンケート結果から、授業内容や教員の教え方について問題はないことが読み取れた。 ・ 長期欠席した学生への対応を丁寧に行い、課題提出まで遅くことができた。 ・ 学生達が能動的に授業に参加し、授業外の学修時間を確保するように課題の出し方を工夫する。 ・ 提出された課題のチェックを早めに行い、学生達への効果的なフィードバックを行えるよう配慮する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習系の科目については、学生一人ひとりの進捗状況を確認しながら、全体として計画通りの内容を修了できるよう配慮する。 ・ 課題のチェックと学生へのフィードバックを丁寧に行う。 ・ 学生たちが主体的に授業に参加できるよう、深く考えることは必要な課題を提示するとともにアクティブラーニングの手法を積極的に取り入れる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネス文書作成1の初心者クラスと経験者クラスについては、それぞれのレベルに合わせた内容で進めるが、前期最後の時点で同じ内容で終了できるよう配慮する。 ・ ビジネス文書作成3については、日商PC検定やMOSを題材として使用し、学生が自主的により応用的なレベルでのドキュメント作成ができるようになることを目指した指導を行う。 ・ 情報検索については、個人情報保護や著作権に気を付けながら、正しく情報を活用する方法を具体的に指導する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は新型コロナウイルスの影響で約3週間の休校があったが、この期間に学生たちが深く考えて取り組む課題を提示し、休校後にこの課題内容を踏まえて授業を進行したことで、前年度よりも学生の理解が深くなったと感じた。 ・ ビジネス文書作成1では、タイピング練習用カードが効果的に活用されるようになり、初心者クラス、経験者クラスともモチベーションの維持にも役立ち、全員がタッチタイピングをマスターすることができた。 ・ 学生による授業評価アンケートの結果から、教員の教え方や学生の理解度、全体的な満足度が全て4以上となっており、これまでの方法を踏襲しながらも、より良い授業ができるよう工夫を重ねたい。 ・ 休校の影響で、演習系科目での課題数が前年度より少なくなりました。取り組みなかった課題については、後期の科目で補いたい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | | 学生の理解度 | | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 | | | | | | | |
| | | | | 人 | % | 人 | % | | | 人 | % | | | | | |
| キャリアアップセミナー2 | 19L | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 34.8分 | 4.5 | | | | | | | | | |
| キャリアアップセミナー1 | 20L | 4.5 | 4.4 | 4.4 | 4.4 | 55.9分 | 4.3 | | | | | | | | | |
| ゼミナール | 19L | 4.8 | 4.6 | 4.6 | 4.8 | 72.0分 | 4.6 | | | | | | | | | |
| ビジネス文書作成3 | 19L | 4.7 | 4.7 | 4.6 | 4.5 | 42.9分 | 4.5 | | | | | | | | | |
| ビジネス文書作成1 | 20L | 4.7 | 4.6 | 4.5 | 4.3 | 40.5分 | 4.5 | | | | | | | | | |
| プレゼミナール | 20L | 4.3 | 4.3 | 4.4 | 4.4 | 77.7分 | 4.2 | | | | | | | | | |
| 情報処理演習 | 19S | 4.6 | 4.5 | 4.4 | 4.2 | 53.7分 | 4.4 | | | | | | | | | |
| 情報処理演習 | 20S | 4.2 | 4.4 | 4.1 | 4.1 | 30.0分 | 4.3 | | | | | | | | | |
| 情報検索 | 20L | 4.8 | 4.7 | 4.5 | 4.5 | 60.0分 | 4.6 | | | | | | | | | |
| 病院実習 | 19L | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 40.0分 | 4.3 | | | | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| ビジネス文書作成3 | 19L | 必修 | 29 | 85.6 | 15 | 53.6% | 9 | 32.1% | 1 | 3.6% | 3 | 10.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| ビジネス文書作成1 | 20L | 必修 | 23 | 84.2 | 9 | 39.1% | 9 | 39.1% | 5 | 21.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 情報処理演習 | 19S | 選択 | 19 | 83.0 | 7 | 36.8% | 7 | 36.8% | 3 | 15.8% | 2 | 10.5% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 情報処理演習 | 20S | 選択 | 13 | 83.7 | 1 | 7.7% | 9 | 69.2% | 3 | 23.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 情報検索 | 20L | 必修 | 23 | 89.3 | 12 | 52.2% | 11 | 47.8% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 病院実習 | 19L | 選択 | 4 | 90.0 | 4 | 100.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報検索においてプレゼンテーションを実施し、自己評価と他己評価を行った。 ・ 各科目の欠席者や検定試験受験希望者に対して、オフィスアワーや空き時間で補習を行った (随時)。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生達が能動的に授業に参加し、授業外の学修時間を確保するように課題の出し方を工夫する。 ・ 提出された課題のチェックを早めに行い、学生一人一人の理解度に合わせた効果的なフィードバックを行えるよう配慮する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1) 前年度の社会心理学とビジネスデータ活用1・3の授業では、学生の基礎学力や応用力、学習意欲に二極化の傾向が見られたため、今年度は授業の構成や教材、教授法や課題、自由研究の方法を工夫し、個々の学生の学習意欲と問題解決能力の育成に努めたい。
 2) 可能な限りアクティブラーニングの教授法を取り入れた授業を実施し、主体性や問題解決能力、人間関係力の育成に努めたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

1) 学生に質問をしたり、自由研究で発表をさせたりして、アクティブラーニングの教授法を取り入れるようにする。
 2) 授業中の学生の発言や態度をその場で学生にフィードバックし、学習意欲や問題解決能力の育成に努めるようにする。
 特に、社会心理学の授業の最後に、毎回授業の専門用語に関連する活用事例や感想を記述させるようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1) 今年度の社会心理学では、授業の前半はテキストとオリジナルのプリント教材を用いてテーマに関する用語や理論を説明し、授業の後半では教材の動画を上映してテーマの理解を深める授業構成とした。また、教員の質問に対する学生の発言をボーナス点として成績評価に加点し、学生の能動的な学習意欲の促進を図った。さらに、授業の最後に毎回意見や感想のレポートを提出させたり、演習形式の授業や学生の研究発表も授業計画に取り入れた。また、授業の前半はテキストに沿ってエクセルの機能と操作方法を説明し、授業の後半では独力で練習問題に取り組む授業構成とした。また、定期試験の数週間前には、オリジナルの応用問題を出題することで、これまでの授業内容を総合的に理解し、正確さと迅速さと問題解決能力の育成に努めた。さらに、授業の最終回には自分の理解度や弱点のフィードバックを行い、学習意欲の促進を図った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1) 学生による授業評価アンケートの結果では、講義科目の社会心理学と演習科目のビジネスデータ活用1と3を含む全科目において、①内容やレベル、②教員の教え方、③学生の学習意欲、④学生の理解度、⑤全体的な満足度は、すべて4.0以上の高い評価である。
 2) 授業担当教員による成績評価の結果は、ビジネスデータ活用3が平均85.7点、社会心理学が79.7点と高く、S・A・Bの上位の成績評価を示した割合は、ビジネスデータ活用3が約8割、社会心理学が約9割と非常に高い学修成果を上げている。一方、ビジネスデータ活用1は平均76.1点、S・A・Bの割合が約5割、Cの割合も約5割と、非常に悪い成績である。これは、ビジネスデータ活用1が表計算ソフトエクセルの基礎知識として計算の公式や関数の書式を暗記する数理的な知識が必要なため、毎回の授業の復習が不可欠で、授業についてこれない学生が多いためと思われる。今後は、反復練習を多く取り入れた教授法を検討していく必要があると思う。

| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | |
|-------------------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
| インターンシップ2 | 19L | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 30.0分 | 5.0 |
| キャリアアップセミナー2 | 19L | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 34.8分 | 4.5 |
| キャリアアップセミナー1 | 20L | 4.5 | 4.4 | 4.4 | 4.4 | 55.9分 | 4.3 |
| ゼミナール | 19L | 4.0 | 4.0 | 4.3 | 4.0 | 67.5分 | 4.0 |
| ビジネスデータ活用3 | 19L | 4.5 | 4.3 | 4.4 | 4.4 | 55.6分 | 4.3 |
| ビジネスデータ活用1 | 20L | 4.3 | 4.2 | 4.5 | 4.2 | 65.2分 | 4.3 |
| プレゼミナール | 20L | 4.3 | 4.3 | 4.4 | 4.4 | 77.7分 | 4.2 |
| 病院実習 | 19L | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 40.0分 | 4.3 |
| 社会心理学 | 19L | 4.4 | 4.5 | 4.4 | 4.5 | 56.3分 | 4.4 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評価 | | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|----|--------|----|-------|---|-------|----|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| ビジネスデータ活用3 | 19L | 必修 | 29 | 85.7 | 15 | 53.6% | 5 | 17.9% | 2 | 7.1% | 6 | 21.4% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| ビジネスデータ活用1 | 20L | 必修 | 23 | 76.1 | 7 | 30.4% | 3 | 13.0% | 2 | 8.7% | 11 | 47.8% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 病院実習 | 19L | 選択 | 4 | 90.0 | 4 | 100.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 社会心理学 | 19L | 必修 | 29 | 79.7 | 3 | 10.7% | 14 | 50.0% | 9 | 32.1% | 2 | 7.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

1) アクティブラーニングの手法は前期のほぼ全授業で取り入れている。具体的には、グループディスカッションや自由研究のプレゼンテーションなどを実施している。
 2) オフィスアワーに訪問する学生はいないが、それ以外の時間にパソコンの授業に関する質問が週に数件あるため、パソコンを用いて説明している。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

1) 今後はビジネスデータ活用1の表計算ソフト・エクセルの到達目標と教授法を改善・工夫し、学修成果の到達度と学習支援の満足度の向上に努めたい。
 2) 社会心理学の授業の最後に毎回意見や感想のレポートを提出させたことは、学生と教員のフィードバックに大変有効であった。よって、次年度も継続して実施していきたい。
 3) できるだけアクティブラーニングの手法を取り入れ、学習意欲や問題解決能力の学修成果を重視した授業と評価を実施していきたい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

・情報技術や理論など学生にとってあまり興味のない分野、論理的思考が苦手な学生に興味を持ってもらう授業構成を目指す。
 ・視聴用教材の内容が古くなって現在の技術に合っていないものもあり、見直しを検討。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

・新型コロナウイルスによる休校期間中の授業（情報リテラシー、プログラミング）について、オンラインで実施。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

・オンライン授業の実施前に、学内でMicrosoft TeamsとZoomを利用して使用法等の説明を実施。
 ・教科書等の資料は事前にPOIに取り込み、オンライン配布。
 ・これまで教材として利用していたテレビ番組の録画の他にYouTube動画などを自習教材として利用。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・オンライン授業については、学生の自宅でのネットワークやパソコン環境が整っていない者が多く、スマートフォンのみでの受講には困難があった。
 ・これまで教材として利用していたテレビ番組の録画は、著作権上オンライン配信ができなかった。
 ・プログラミングの満足度は4.3と比較的良かったが、サンプルプログラムのスベルミスの修正に手間取る学生が多く、自らプログラムを作れる段階に達した学生は僅かだった。
 ・学生への貸し出し用PCの整備等が必要と思われる。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科 目 名 | 対象 学年 | 内容や レベル | 教員の 教え方 | 学生の 学習意欲 | 学生の 理解度 | 授業外 学習時間 | 全体的な 満足度 |
|--------------|----------|------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|
| キャリアアップセミナー2 | 19L | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 34.8分 | 4.5 |
| キャリアアップセミナー1 | 20L | 4.5 | 4.4 | 4.4 | 4.4 | 55.9分 | 4.3 |
| ゼミナール | 19L | 4.5 | 4.3 | 4.5 | 4.5 | 56.3分 | 4.0 |
| プレゼミナール | 20L | 4.3 | 4.3 | 4.4 | 4.4 | 77.7分 | 4.2 |
| プログラミング | 19L | 4.1 | 4.0 | 4.3 | 3.7 | 25.7分 | 4.3 |
| 情報リテラシー | 20L | 3.9 | 3.7 | 4.1 | 3.5 | 62.6分 | 3.5 |
| 情報処理演習 | 19S | 4.6 | 4.5 | 4.4 | 4.2 | 53.7分 | 4.4 |
| 情報処理演習 | 20S | 4.2 | 4.4 | 4.1 | 4.1 | 30.0分 | 4.3 |
| 病院実習 | 19L | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 40.0分 | 4.3 |

| 科 目 名 | 対象 学生 | 必修 選択 | 履修 者数 | 平均 点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|---------|-----|--------|---|-------|---|-------|---|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| プログラミング | 19L | 選択 | 7 | 78.6 | 0 | 0.0% | 4 | 57.1% | 2 | 28.6% | 1 | 14.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 情報リテラシー | 20L | 必修 | 23 | 78.8 | 3 | 13.0% | 9 | 39.1% | 8 | 34.8% | 3 | 13.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 情報処理演習 | 19S | 選択 | 19 | 83.0 | 7 | 36.8% | 7 | 36.8% | 3 | 15.8% | 2 | 10.5% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 情報処理演習 | 20S | 選択 | 13 | 83.7 | 1 | 7.7% | 9 | 69.2% | 3 | 23.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 病院実習 | 19L | 選択 | 4 | 90.0 | 4 | 100.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・オフィスアワーは開設しているが、その時間帯以外も試験前以外の利用は少数。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

・到達目標、授業構成を改善し、満足度の向上に努める。
 ・アクティブラーニングの手法を取り入れ、更に学習意欲の向上を目指す。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1. 今年度アンケートの結果について、大きな問題はなかったものの、演習系の授業への積極的な取り組みの促しという点では、積極的な学生とそうでない学生の差がみられたように思う。その点、満足度のばらつきにもつながったのではないかと。この点、対応を検討し授業改善を行っていききたい。
 2. 学生の苦手分野や科目の分析等を進め、理解に時間のかかる学生にもできるだけイメージしやすく理解しやすい授業構成をさらに進めることが今後の課題となる。事例などの活用の仕方なども再検討したい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上
 学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。事例紹介や演習・ロールプレイなどのアクティブラーニングの手法をさらに効果的に盛り込み、主体的な取り組みを促す。特に、学生による取り組み姿勢の差をなくし、全体のレベルを上げる。
 2. 実習指導内容の充実
 ①各授業における、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、教員間の協力・情報共有体制の強化、②学生ごとに異なる能力・意欲に対応できるように、徹底した個別支援・指導の実施。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1. 対面授業の大幅な制限を余儀なくされたため、急遽、動画配信による遠隔授業を実施することとなった。内容としては、対面授業に準ずる形で教科書・レジュメでの重要事項のまとめと確認を行い、知識の定着をはかった。テーマに関する映像資料については、3密回避の徹底と時間制限などの対応をとりつつ実施したが、演習やロールプレイなどは大幅に制限、授業計画の変更をせざるを得なかった。
 2. 授業と実習の関連について、就業後の実践も意識しつつ取り組めるような授業内容・構成を行ったが、演習についてはかなりの内容変更・制限を強いられた。学生毎の個別支援は徹底して行った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1. 今年度アンケートの結果については、特にほぼ遠隔授業で実施することとなった1年生の満足度の低下が目立つ形となった。2年生の演習系の授業への取り組みの促しについても、コロナ対策のため、グループ演習より個別演習に比重を置く形に修正した。結果として、学生個別の取り組みの成果を明確にすることができたように思う。課題と成果を検討し、今後も授業改善を行っていききたい。
 2. 実習との連動は当然ながら、就職後の実践も見据えたい。学生の苦手分野や科目の分析等を進め、取り組みやすい授業構成をさらに進めることが今後の課題となる。事例などの活用の仕方なども再検討が必要となる。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|-----------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| | | | | | | | |
| 保育実習指導 I | 20Y | 4.0 | 4.0 | 4.1 | 3.9 | 46.6分 | 4.0 |
| 保育実習指導 II | 19Y | 4.5 | 4.5 | 4.6 | 4.6 | 33.7分 | 4.5 |
| 卒業研究 | 19Y | 4.8 | 4.9 | 4.8 | 4.8 | 60.0分 | 4.9 |
| 相談援助 | 19Y | 4.6 | 4.5 | 4.5 | 4.4 | 35.2分 | 4.5 |
| 社会的養護 | 20Y | 4.1 | 4.1 | 4.0 | 3.8 | 56.5分 | 3.9 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評価 | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 相談援助 | 19Y | 選択 | 103 | 84.3 | 29 | 29.3% | 47 | 47.5% | 16 | 16.2% | 7 | 7.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 社会的養護 | 20Y | 選択 | 94 | 81.2 | 28 | 29.8% | 23 | 24.5% | 27 | 28.7% | 16 | 17.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

〈アクティブラーニングについて〉
 コロナ対策のための対面授業の制限により、演習系の授業についてはかなりの計画修正を強いられた。そのなかでも、グループ演習から個人演習への変更と、演習とオンデマンドの組み合わせた授業のありかたを内容に取り入れることができた。結果として、制限された状況においても学生の意欲的な取り組みにつなげることができたのではないかと考える。1年生については、大規模教室からの方針変更にも十分な準備時間が取れなかったこともあり、当初予定していたA・Lはほとんど実施できなかった。
 〈オフィスアワーについて〉
 効果的に活用できた。オフィスアワーをきっかけに学生が訪室しやすくなることで、よりスムーズな学生支援の実施につなげられたと考える。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上 (対面授業の制限への対応も想定する)
 学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。対面授業が大幅に制限される状況も想定し、今期成果が得られた個別演習の充実を図るとともに、学生の相互感染リスクを避けつつ負担が過剰にならない範囲での演習方法を活用した授業方法の検討を進める (オンデマンド、学内PCネットワークシステムの活用などを検討)。
 2. 実習指導体制の確認と内容の充実
 ①各授業における、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、実習施設との密な連携 (新型コロナウイルス対応体制の確認も含む)、教員間の協力・情報共有体制の強化、②学生ごとに異なる能力・意欲に対応できるように、徹底した個別支援・指導の実施。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度の前期においては、実戦形式を授業に多く取り入れた結果、学生の学習意欲に関しては改善することができた。しかし、その他の項目については一昨年度を下回る結果となっていたため、内容、授業形態の見直しが必要であった。特に、「運動遊びの実践」においては、人数が50名近くいたため、指導が行き届かない部分があった。そのため、大人数でも内容の充実が図れるような授業形態を検討していきたいという課題が挙げられた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

昨年度の課題を踏まえ、以下の2点を今年度の目標として掲げた。

(1) 実技科目の授業形態を見直し、内容の充実を図れるよう、グループ活動の人数配分を検討する。
(2) 講義科目に関しては、スモールステップによる向上を図る。具体的には、小テストを細かく行い、習得状況の確認を行いながら授業を進める。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

実技科目においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、接触のある動きを可能な限り避け、人数配分に注意しながら創作活動等を行った。創作活動においては、前年度よりも課題を増やして実施した。
講義科目においては、新型コロナウイルス感染防止対策のため、オンラインでの講義を行った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実技、講義共に十分な内容を学生に伝えることができなかった。特に、遠隔授業ではオンデマンド方式の授業を行ったが、質問がその場でできない等の問題があったため、学生による授業評価アンケート結果を見ても、遠隔授業で行った科目は全体的な満足度が低くなっていることが見て取れる。今後、遠隔授業を行う際には双方向型の授業を検討していく必要がある。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科 目 名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|---------------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 保育実習指導 I | 19Y | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 32.4分 | 4.6 |
| 保育実習指導 I | 20Y | 4.0 | 4.0 | 4.1 | 3.9 | 46.6分 | 4.0 |
| 保育実習指導 II | 19Y | 4.5 | 4.5 | 4.6 | 4.6 | 33.7分 | 4.5 |
| 卒業研究 | 19Y | 4.9 | 4.8 | 5.0 | 4.8 | 42.0分 | 4.7 |
| 子どもと健康 (体育) | 20Y | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 3.8 | 51.4分 | 3.9 |
| 運動遊びの実践 (指導法) | 19Y | 4.7 | 4.8 | 4.7 | 4.8 | 21.2分 | 4.7 |

| 科 目 名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|---------------|------|------|------|------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 子どもと健康 (体育) | 20Y | 必修 | 94 | 69.6 | 6 | 6.4% | 15 | 16.0% | 24 | 25.5% | 49 | 52.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 運動遊びの実践 (指導法) | 19Y | 必修 | 104 | 84.9 | 43 | 41.7% | 48 | 46.6% | 3 | 2.9% | 7 | 6.8% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義科目については、アクティブラーニングを取り入れることができなかった。オフィスアワーについては随時対応した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度は、新型コロナウイルスの状況にもよるものの、今年度実施できなかった内容を充実させたいと考えている。また、遠隔授業についても、今期のみで終わらせるのではなく、適宜活用しながら授業の深化を図りたい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

①保育方法論
前年度はICT活用に関する講義だけでなかなか実感できなかったように思われる。

②卒業研究
前年度はパソコン習熟度の差によってグループ間の差が開いた。

③生活とアート
前年度は受講生の興味関心を授業内容に反映させて、かなり仏教美術に時間を割いたため、後半の美術の内容が薄くなったので、前半と後半のバランスを取りたい。、ペアによるチャート作成の回数を増やして相互の学修意欲が高まるようにしたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①保育方法論
今年度は、ICT活用を実感できるように、簡単な情報機器活用を実際に体験してもらう計画である。実際に園で行われているICT活用の画像を多くする。

②卒業研究
今年度はグループ構成人数を1～3名に抑える計画である。

③生活とアート
中学校美術等で目にした可能性の高い画像を多する等によって親しみやすくし、前半と後半の内容のバランスを取る。ペアによるチャート作成の回数を増やして相互の学修意欲が高まるようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①保育方法論
新型コロナ感染症対策のためYouTube利用の遠隔授業で実施した。できるだけ受講生が自身の意見を記述できるような質問を設けた。

②卒業研究
自主的に各グループ3名から成る3グループになったので、各グループでテーマを設定して文献資料を収集し、夏期休暇に入る前に郵送によるアンケート調査を実施した。

③生活とアート
新型コロナ感染症対策のためYouTube利用の遠隔授業になったため、作者の肖像画・肖像写真を増やす等によって作品に親近感をもちやすい内容にした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①保育方法論
実際に園で行われているICT活用の画像をできるだけ取り入れた。

②卒業研究
各グループが夏期休暇に入る前にアンケート調査を実施したので、後期は早々にアンケート調査結果をまとめていく。

③生活とアート
クイズ形式で質問して次週に解答する方法や、中学校の美術で取り上げられている作品を多く紹介したことに、親しみをもってもらえたようである。受講生のアドレスメールで動画URLを送信した。ただし受信できないと知らせてくる特定の受講生がいたので、確実な連絡方法が必要である。動画撮影時は通常よりも大きめの声で話す必要がある。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | | 学生の理解度 | | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|---------|------|--------|--------|---------|-----|--------|-----|---------|---------|
| | | | | 人 | % | 人 | % | | |
| 保育実習指導Ⅰ | 19Y | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 32.4分 | 4.6 | | |
| 保育実習指導Ⅰ | 20Y | 4.0 | 4.0 | 4.1 | 3.9 | 46.6分 | 4.0 | | |
| 保育実習指導Ⅱ | 19Y | 4.5 | 4.5 | 4.6 | 4.6 | 33.7分 | 4.5 | | |
| 保育方法論 | 19Y | 4.4 | 4.4 | 4.4 | 4.3 | 40.5分 | 4.3 | | |
| 卒業研究 | 19Y | 4.1 | 4.0 | 4.2 | 4.2 | 10.0分 | 4.2 | | |
| 生活とアート | 20S | 4.3 | 3.7 | 4.1 | 4.1 | 60.0分 | 3.7 | | |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|--------|------|------|------|------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 保育方法論 | 19Y | 選択 | 103 | 76.6 | 15 | 14.7% | 40 | 39.2% | 20 | 19.6% | 24 | 23.5% | 1 | 1.0% | 0 | 0.0% |
| 生活とアート | 20S | 選択必修 | 7 | 74.7 | 1 | 14.3% | 1 | 14.3% | 3 | 42.9% | 2 | 28.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングとして、「生活とアート」でペアによるチャート作成を計画していたが、コロナ感染症対策のため遠隔授業としたので、実施できなかった。
オフィスアワーを設定しているが、それ以外で尋ねてくる学生がほとんどである。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①保育方法論
新型コロナ感染症の状況によるが、可能ならパソコンの簡単な活用を実際に体験してもらう計画である。

②ゼミナール
保育に関わる研究報告だけでなく、実践報告も含める。

③生活とアート
新型コロナ感染症の状況によっては遠隔授業も含めながら、中学校美術でよく紹介される作品を中心に、その作者の肖像画・肖像写真とともに生活等を解説に含める等、学修意欲が高まるような工夫を加える。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1. 特別ニーズ教育
 アクティブ・ラーニングの要素を取り入れグループ協議を主とした授業を行ったが、一部学生の課題意識が乏しく学習への参加が低調であった。
 2. 保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ
 2名が受講し本人の進路希望に沿った指導及び実習に取り組んだ。1名は児童養護施設への進路実現に結びついたが、1名は進路変更し保育所に就職した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1. 特別ニーズ教育
 本年度から科目名が変わり、併せて幼稚園教諭免許取得及び卒業必修科目となった。引き続きグループ協議・発表、プリント記入等を工夫し、アクティブ・ラーニングを更に充実させる。
 2. 保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ
 学生の進路希望に即した実習先の選定と実習指導の一層の充実をめぐる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1. 特別ニーズ教育
 導入時でテーマに沿った映像を視聴させる。その内容についてのグループ協議及び発表を通して、特別な保育・教育的ニーズのある子供の理解や支援の必要性について考えさせる。授業で学んだことをA4プリントに記入させ提出させる。
 2. 保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ
 施設保育士を希望する学生の思いを重視し、個々の学生の進路実現に沿った実習指導の内容展開と実習を具現化する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1. 特別ニーズ教育
 新型コロナウイルス感染予防のために、グループ学習は実施できなかった。毎授業後のプリント記述内容や授業評価から、大半の学生が意欲的に取り組み理解も進んだことがうかがえるが、学習意欲が乏しい一部学生への対策は引き続きの課題である。
 2. 保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ
 新型コロナウイルス感染防止による本学の休校のため、教育実習の日程が変更となり希望実習となる本実習は取り止めざるを得なかった。

| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|------|--------|------|--------|---------|--------|---------|---------|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 | | | | | | | | |
| 特別な教育的ニーズの理解とその支援 | 19Y | 4.4 | | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 23.8分 | 4.2 | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

1. アクティブ・ラーニング
 特別ニーズ教育において取り組んでいるが、新型コロナウイルス感染症の影響でグループ協議は取り止めた。
 2. オフィスアワー
 月曜日に実施し、実習前に障がいのある子どもの関り方についての相談が複数回あった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1. 特別ニーズ教育
 新型コロナウイルス感染防止に留意しつつ、講義内容や個人発表、プリント記入等を工夫し、アクティブ・ラーニングの一層の充実をめぐる。
 2. 保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲ
 進路希望に即した実習先の選定と実習指導に努め、施設保育士としての進路実現を図る。

| 令和 2 年 前 期 | | 授業評価報告書 | | 氏名 | | 白石 景一 | | | | | | | | | | |
|---|------|---------|------|--------|---------|--------|---------|---------|----|-------|---|------|---|------|--------|------|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>まずは、音楽に関する、また、子どもに関する科目であるので、楽しい、面白い、分かりやすいを念頭に行った。しかし、前年度より、通年での学習を半期で行うこととなった結果、どうしても実技的な内容を多く含む科目であるため、かなりの無理が生じてしまうことは否めない。その中で、学習内容を精査し、必要最低限の内容を抽出し、また、個人差の非常に大きなこともある中で、一人ひとりになるべく対応しよう心がけた。しかしどうしても今までの半分の期間で100名以上の学生に対して指導をきめ細かく行き届かせることは難しい問題である。</p> <p>通年を半期に絞る際に全体的に絞るのではなく、重要度をもっと絞って重点的に指導するべきではなかったかと反省しており、この点を次年度への課題とした。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>前年度の課題も踏まえた上で、やはり、まずは、音楽に関するまた、子どもに関する科目であるので、楽しい、面白い、分かりやすいを念頭に行う。</p> <p>「楽典」の必要最小限の内容と、「子どもの発達と音楽との関係」をより重点的に絞り、小テストを挟むことで、理解度を確認しながら進める。また、5指の移動なく演奏可能な、「メリーさんのひつじ」「ちょうちょう」「ぶんぶんぶん」「おかたづけ」の簡易伴奏による課題をもとに、1年通年科目の「子どもの歌と伴奏法」特に、コード伴奏法の基礎力サポートも試みる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>当初の計画では音楽室で実施する授業計画であったが、新型コロナウイルス対策のためということもあり、記念ホールでの実施となり、楽器庫が無いこと、五線ボードがないこと、ピアノが1台しか無い、机が非常に狭い、マイクを使用しなくてはならない、歌えないなど、音楽関係の授業としては、特に様々な支障がある中、臨機応変に行った。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学生も間隔を置いて、しかもマスクをした状態で、声が歌が飛ばせない中、教師もマスクをした状態での授業は、表情も出しづらいわけで、このような、特に音楽にとって異常な状態での授業であったが、学生の授業への参加度は高かったと感じている。ただ、経験度の差が非常に大きく、どうしても理解が難しい学生もいたことは認めざるを得ない。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象学生 | 内容やレベル | | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学習時間 | 全体的な満足度 | | | | | | | | |
| 子どもと表現 (音楽) | 20Y | 3.3 | | 3.3 | 3.8 | 3.2 | 39.5分 | 3.2 | | | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 子どもと表現 (音楽) | 20Y | 必修 | 94 | 79.0 | 15 | 16.0% | 27 | 28.7% | 45 | 47.9% | 6 | 6.4% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>関心の高い学生や、どうしても理解できなかった学生が授業終了後、たびたび質問に訪れた。また、新型コロナウイルスの影響で授業日程が変則的になった関係で、1時間特別に試験対策のための補修を行ったりした。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>次年度担当の予定なし。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

音楽はアクティブラーニングを主とした授業であるが、より意識して自分の課題、他者の課題、共通課題について話し合い、一人一人が理解し工夫し合った。
 課題は学生によって大きな違いがあるので、意見交換を参考に、自身の自己イメージ、リアリティ、表現などを取り入れた。
 意見交換によって新しい可能性を発見することができたので、引き続き活発な意見交換を行っていく。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今年度は1回目の授業後、コロナの影響で休校となったので、共通の課題について直接の意見交換が少なく、週4回のLINE交換を話し合い苦労した。
 昨年度の課題に対して成果があったので、後期の授業では昨年度を参考に自分の課題、他者との課題、目標に重点を置き、取り組むことにしている。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

21世紀は感性と発信の時代なので、学生一人一人を信じ、台本を作り、大道具小道具作り、歌、台詞、踊り、それぞれに対し自分の意見、感性を発信し合い作品を作っていく。
 自己信頼、他者信頼とセルフイメージを高めながら課題に取り組む。
 実技に対しては、自身がコンフォートゾーンの移行に専念する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

変わりたくて希望しているので、それぞれがやる気で挑戦している。
 前期授業はコロナにより、思うように授業ができていないことが可憐そうであった。
 LINEにての課題を出して繋がっていたことは、成果があった。

| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | |
|-------------------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
| 卒業研究 | 19Y | 4.9 | 4.9 | 4.9 | 4.8 | 106.4分 | 4.9 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評価 | | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|-----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

ミュージカルの授業そのものが、常にアクティブラーニングであり、オフィスアワーである。
 問題点、課題に対して一つ一つその都度、学生たちが意見交換、話し合いに取り組んだ。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

課題は、常に興味関心を持って取り組ませることで、意識、意欲が目的と繋がっていない場合の誘導の指導である。
 自分の課題、他者の課題、共通の課題をしっかり理解して行動し、感性と発信を大事にするよう指導していきたい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

個室で行うマンツーマンのピアノ・弾き歌い・歌唱のレッスンでは学生の必要以上の緊張や抵抗があるため、教員と学生間の距離が少しでも縮められ信頼関係を築くことに勉めた。レッスンの内容や進め方に於いても学生の意見や考え・思いを随時聞くようにした。結果、学生個人個人の性格を把握しながらレッスンでき、学生も少しずつ心を開いて考えや思い、疑問点や改善点を話すようになってきた。全員ではないが意欲を感じられ努力するようになった。基礎的な音楽理論の認知度が低い学生においては、例年通り授業時間外で同意のもとレッスンをした。同様に歌唱法においても授業時間外でのレッスンをした。前期は特にピアノ初心者や、同等レベルの学生へのピアノ奏法に時間を取られ、弾き歌いに必要な歌唱法の指導が僅かな時間しか指導できないため、あくまでも学生の同意を得ながら日程を決めてレッスンした。学生も自分の声や歌い方に疑問や不安があり、2人~6人を人グループとして、互いに聴き合いながらレッスンをした。進んでレッスンを受けたと言う学生が多かった事と、その学生達が今までの歌唱法から変化が見られ、歌う事への喜びを感じてもらえた事が成果であった。しかし授業時間内での指導法に工夫と研究がさらに必要であった事は課題点である。ピアノ個人レッスンだけではなく「保育と音楽表現」の班分けでの授業においても、教員の性格や考え・思い、経験談を話す事で、「先生」と言う職業について、音楽が何をもたらすのか、経験によっての生き方と考え方、保育者になる事とは、についての興味を持ち意識できる学生も少しずつ増えた。また、授業導入で行った「朝のお集まりプチ模擬保育」では、先生役になった学生が初めて一人で人の前に立ち「先生」と言う女優になって、子ども達に対しての表情や声掛けをする取り組みは、実習にとても役に立ったとの感想が殆どであり、次年度前期にも取り入れる予定である。増加しているピアノ初心者や同レベルの学生に対して、授業時間内で理解力と進捗力をどのようにつけるか。また歌唱法に於いては、ピアノのみならず歌を専門とする教員が他にいないため、担当学生以外の学生にどのような形で歌唱法を指導するか。例年弾き歌いのテスト終了後や、他の時間に気負わず委縮しない声掛けをして希望者をレッスンしている。「保育と音楽表現」では学生の性格や専門教科への認知度を早く把握して、一人ひとり違った課題の指導や、積極的な授業の取り組みとなるための授業展開と進捗の考察が必要と考える。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

- ・実技である事からオンライン授業ができないため、練習室やレッスン室、音楽室、音楽あそび室など、音楽授業 に関してのコロナ感染予防を第一に授業を行う。
- ・コロナ感染予防に当たり、練習室やレッスン室、音楽授業に使用する教室の使用方法和、学生自身が感染予防 の意識を持って練習室を使用するための指導を行う。
- ・教員として学生が成長できるための能力や個性を持ち備えている事を常に意識し、指導をする。
- ・少しの成長や達成に対してのも褒めながら分析・説明をする。
- ・保育者になるための高い意識を持たせること、やる気にさせるための指導方法の工夫をする。
- ・人の前にてることへの羞恥心を軽減できるための授業展開を行う。
- ・言葉や感情や場を考慮して指導する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・学生一人ひとりの個性を早く見極めて、その学生自身に見合った指導をする。
- ・やる気にさせる言葉や授業内容及び進め方の工夫をする。
- ・メンタル面強化の励みの言葉かけをする。
- ・演奏を苦痛に思わず、奏でられる事の喜びや楽しさを感じてもらおう。
- ・学生自身が自らの課題点や到達点を発見でき次のステップに生かせる助言と指導を行う。
- ・自信は勇気の積み重ねであり、失敗を恐れず一歩を踏み出すメンタル面からの勇気を促す。
- ・歌唱法のレッスンに於いては、ピアノレッスン以上に感染防止の策を考へ、広い教室で、間隔とキョリを空けて、 マスクを着脱で行った。喚起やアルコール消毒、水分補給にも常に気を配りながら行う。
- ・自分の声、歌唱法のコンプレックスを解消するためのレッスンをを行う。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

どの教科においても常に学生とのコミュニケーションを大切にしてきた。教員と学生間の距離を縮めながらお互いを知り、信頼関係を築く事で極度な緊張感を和らげ、ピアノ個人レッスン・ゼミでは特に教員と学生間の溝はなく、目標・到達点に近づくための指導ができたと思ふ。しかし、例年だと班編成で前半後半に分けて音楽あそび室で行う「保育と音楽表現」は、コロナ予防対策のため記念ホールでの2年生全員の授業となった。そのため、個人個人の能力や課題、成長を確認する事が難しかった。しかし、より良い実習を行える事、現場で働く事への意識を常に持つよう「子どもの歌」や「手遊びうた」を通して指導を続けた。自分を表現する事が苦手な学生への声かけと指導法を威圧感なく行う事をさらに工夫したい。また、年々ピアノ初心者が増加しているが、その学生達を始め、努力の継続が大切な事を丁寧に説明し指導に当たった。学生達がその意味を受け止めて頑張りて欲しいと切に思い、個別での指導を負担なく行った。「子どもの歌」「手遊びうた」の授業では、次週取り組み課題を自主的に学ぶ事を伝えていたのにもかかわらず、授業では教員頼りになってしまう学生が多かったので、自主性や積極性を感じ取るための指導方法を工夫したい。

| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|---|---|---|---|---|---|---|-------|---|
| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学習時間 | 全体的な満足度 | | | | | | | | | |
| 保育実習指導Ⅰ | 19Y | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 32.4分 | 4.6 | | | | | | | | | |
| 保育実習指導Ⅰ | 20Y | 4.0 | 4.0 | 4.1 | 3.9 | 46.6分 | 4.0 | | | | | | | | | |
| 保育実習指導Ⅱ | 19Y | 4.5 | 4.5 | 4.6 | 4.6 | 33.7分 | 4.5 | | | | | | | | | |
| 卒業研究 | 19Y | 4.9 | 4.9 | 4.8 | 4.9 | 62.5分 | 4.8 | | | | | | | | | |
| 子どもの歌と伴奏法 | 20Y | 3.4 | 3.8 | 4.1 | 3.4 | 75.0分 | 3.6 | | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W(脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

音楽を通じて心の悩みを打ち明ける学生を始め、音楽に関係なく悩みや不安を打ち明けて来る学生も多く、それぞれ抱えている悩みに時に教員として、時に人生の先輩として、心からの思いや考え、方法などを時間をかけながら相談のっている。相談に来た学生も時間をかけて何度も面談をする事で心のつかえが取れたり、悩みを解決しようと言う前向きな考えを持つようになってきたりと、悩みを克服したい一心がその学生の成長に繋がっていると感じている。今後も学生の悩みや相談には時間をかけてじっくり話を聞き、学生の悩みの負担を軽減でき成長できるための指導をしたい。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

- ・ピアノレッスンに関しての不安感が強い学生、自分の声や声の出し方にコンプレックスがある学生へのメンタル面の強化や、学生自身が各々の課題を知り克服できるための指導を強化したい。
- ・学生一人ひとりの性格を早く把握し、各々の個性を大切に教員と学生間の信頼関係を構築しながら指導したい。
- ・学生自身が自分の良さや課題点、好きな面、嫌いな面と、自分を知る事によって今後の人生にどう繋がるかのディスカッションを設け、その機 教員も自身の人生経験を話しながら課題点を克服できるように、また良い点はさらに伸ばすよう指導したい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

今年度より担当。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

保育者として必要な音楽の指導力である歌唱表現と教材楽曲の伴奏能力の向上を図ることを目的とする授業である。伴奏楽器であるピアノの技能は個人差が顕著であることから、個に対応した指導を行うことが課題であり、その視点から授業の改善を図ることとした。そのための具体的な対策としては、技能が未熟な学生でも演奏が容易にできるようなピアノ伴奏の編曲を試みることである。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

授業では、保育現場で歌われる教材楽曲の歌唱とピアノ伴奏の技術指導を行った。それに加えてピアノのエチュードやピアノ曲を、個々の学生の能力に合わせて選択し、その表現指導を行った。保育現場で歌われる教材楽曲のピアノ伴奏においては、学生の技能に合わせた編曲を行い、簡易伴奏による表現も試みている。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

通年科目の前半では、保育者として必要な音楽の指導力である歌唱表現と教材楽曲の伴奏能力の向上を図るという目的から、主としてピアノ表現技能の向上を目標として個に対応した授業を進めてきた。学生の技能に応じた指導を積み重ねることで、それなりの成果が得られていると感じられる。ピアノ演奏ではテキストの難易度が結果を大きく左右するので、個に応じた楽曲の選択、及び編曲などの工夫が課題である。

| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | |
|-------------------|----------|------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|
| 科 目 名 | 対象 学年 | 内容や レベル | 教員の 教え方 | 学生の 学習意欲 | 学生の 理解度 | 授業外 学習時間 | 全体的な 満足度 |
| 保育と音楽表現 | 19Y | 4.4 | 4.2 | 4.3 | 4.4 | 111.2分 | 4.4 |
| 子どもの歌と伴奏法 | 20Y | 4.0 | 4.2 | 4.0 | 4.4 | 114.0分 | 4.2 |

| 科 目 名 | 対象 学生 | 必修 選択 | 履修 者数 | 平均 点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|-----------|----------|----------|----------|---------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

学授業形態が学生の演奏実技を対象とする個別指導であるため、学生個々の自主性、主体性が要求される授業である。個々の学生に対して、オフィスアワー等を活用して演奏楽曲の選択などを行っている。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

音楽表現を目標とする授業であり、技能の異なる学生に対するきめ細かい指導が要求される。それを解決するための課題として、一人の学生に対する十分な指導時間の確保と、個に適したテキストの提供があげられる。時間の確保については、学生の授業外学習時間を含め指導システムの再検討が必要と考える。個に適したテキストの提供については、教材の精選、及び編曲などについての指導者の工夫が必要である。これらの視点から次年度の授業内容及び指導方法の改善を図りたい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

本年度実施したアクティブラーニング及びICT活用の授業をより充実させる

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

1. 遠隔授業の方法を模索し、学生が満足できる授業を提供する
2. 学生に対するリモートでのフィードバックを充実させる

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1. YouTubeを活用した授業方法を考案し、実施した
2. メールでの課題提出ならびに授業でのフィードバックを実施した

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1. 遠隔授業に関しては、学生の満足度が大きく下回ることではなく、比較的充実していたと考えられる。
2. フィードバックの内容をより充実させる必要がある。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|-----------------------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 保育実習指導 I | 19Y | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 32.4分 | 4.6 |
| 保育実習指導 I | 20Y | 4.0 | 4.0 | 4.1 | 3.9 | 46.6分 | 4.0 |
| 保育実習指導 II | 19Y | 4.5 | 4.5 | 4.6 | 4.6 | 33.7分 | 4.5 |
| 卒業研究 | 19Y | 4.7 | 4.7 | 4.8 | 4.6 | 43.8分 | 4.6 |
| 子どもと人間関係 | 20Y | 3.7 | 3.8 | 3.9 | 3.5 | 56.1分 | 3.7 |
| 教育相談（幼児のカウンセリング理論を含む） | 19Y | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 4.4 | 48.7分 | 4.3 |
| 発達心理学 | 20Y | 3.9 | 4.0 | 4.1 | 3.7 | 61.9分 | 3.8 |
| 領域「人間関係」の指導法 | 19Y | 4.3 | 4.3 | 4.4 | 4.3 | 64.6分 | 4.2 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評価 | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------|------|------|------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|---|------|-------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W(脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 子どもと人間関係 | 20Y | 必修 | 94 | 76.3 | 3 | 3.2% | 49 | 52.1% | 11 | 11.7% | 31 | 33.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 教育相談（幼児のカウンセリング理論を含む） | 19Y | 選択 | 103 | 79.3 | 8 | 7.8% | 64 | 62.7% | 17 | 16.7% | 10 | 9.8% | 2 | 2.0% | 0 | 0.0% |
| 発達心理学 | 20Y | 必修 | 94 | 79.4 | 11 | 11.7% | 52 | 55.3% | 13 | 13.8% | 18 | 19.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 領域「人間関係」の指導法 | 19Y | 必修 | 104 | 79.8 | 0 | 0.0% | 97 | 95.1% | 5 | 4.9% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

遠隔授業という特性上、学生の主体的学習の時間は増加したといえるが、その内容を判断する基準が今期は充実していなかったといえる。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

引き続き、遠隔授業を用いた授業内容の充実を図る

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

読み書きの能力は、幼児教育の現場に立つ者はもちろん、仮に幼児教育職を辞した後にも求められる市民的教養である。よって、自身の考えをまとめ、論理的に整理して、標準的な日本語の文法に基づいて表現できる能力を養えるよう論述を重視したい。
また、現場での実践を重視しながら、広く社会との関係で幼児教育のあり方を考えられるよう関心を喚起する。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・文章を書く基礎を身につけてもらうよう取り組む。レポートを課し、丁寧に添削する。
- ・広く社会との関係で幼児教育を考えられるよう、意義づけから丁寧にこなす。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・レポートを課し、丁寧に添削をし、返却することで、文法の基礎的な注意点を理解してもらう。
- ・引き続き、幼児教育に隣接する事象を取り上げながら、幼児教育にフィードバックさせるよう教材研究に取り組む。
- ・特に、遠隔授業については、学生が理解できるかどうか問題があるので、適宜振り返りをおこなう。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ・わかりやすさには理解できたと答える学生もいたが、難しいと感じる学生もみられる。引き続き、水準を落とさないうまま、理解してもらうよう努める。
- ・幼児教育を広い観点から捉える意義について、理解してもらい困難さを感じた。教養の重要性を理解してもらえるような説明をより丁寧にこないたい。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|---------------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 保育原理 | 20Y | 3.8 | 3.7 | 3.9 | 3.6 | 53.3分 | 3.7 |
| 保育実習指導 I | 19Y | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 32.4分 | 4.6 |
| 保育実習指導 I | 20Y | 4.0 | 4.0 | 4.1 | 3.9 | 46.6分 | 4.0 |
| 保育実習指導 II | 19Y | 4.5 | 4.5 | 4.6 | 4.6 | 33.7分 | 4.5 |
| 卒業研究 | 19Y | 2.0 | 1.7 | 2.7 | 2.3 | 30.0分 | 1.7 |
| 子どもと言葉 | 20Y | 3.7 | 3.7 | 3.9 | 3.6 | 55.2分 | 3.7 |
| 教育原理 (教育史を含む) | 20Y | 3.5 | 3.6 | 3.9 | 3.2 | 51.4分 | 3.5 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|---------------|------|------|------|------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 保育原理 | 20Y | 選択 | 94 | 86.4 | 20 | 21.3% | 55 | 58.5% | 13 | 13.8% | 6 | 6.4% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 子どもと言葉 | 20Y | 必修 | 94 | 82.3 | 23 | 24.5% | 51 | 54.3% | 3 | 3.2% | 16 | 17.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 教育原理 (教育史を含む) | 20Y | 必修 | 94 | 83.0 | 26 | 28.0% | 31 | 33.3% | 24 | 25.8% | 12 | 12.9% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・基礎的な文法を身につけてもらえるようレポートを課した。特に初回のレポートについては細かく添削した。
- ・学生の質問にはほぼ全て答えた。特に難しいといわれたテーマについては、質問を書いてもらい、次の授業で時間をとって説明をおこなった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・学生は、実践の楽しさにはすぐに飛びつくが、より広い範囲については意欲が乏しい。ただ、アンケートの自由記述では好意的な回答もみられたので、より改善できるよう努める。
- ・文章力についても、分量を見直し、保育現場での状況に即した課題を検討する。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

ヒトと生物は、生活創造学科の学生だけであるが、昨年と比較し21名と受講者が増加した。そのため、標本や実物を見せる時間が十分ではなかったが、積極的な受講態度でもあり、講義にも十分満足してもらったと思う。栄養士の科学は今年度より必修となり全員が受講することになった。そのため、知識差や能力差が大きく、講義の展開に苦労した。教材の多様な準備の必要性を感じた。卒業研究は前期からの活動により、後期にはまとめの時間をとる事ができた。同様に活動していきたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

ヒトと生物は、昨年度より受講者が増加したため、受講生全員に標本や実物にゆっくりと見せることが困難であり、時間配分に苦労した。栄養士の科学は、演習の時間や多様なプリントの準備をして、多少の能力差があっても満足できるような講義につとめたい。卒業研究は、前年通り前期に主な研究が終わるように工夫したい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

ヒトと生物は、標本や実物を実際に見たり触ったりする時間が増えたので、講義等に工夫を凝らした。身近な動物の話が中心であり、かつ実物やDVDも見せたので、学生の意欲も高かったように思う。栄養士の科学では、教える内容を多少減らし、難しい分野の演習と理解につとめた。卒業研究は、早目早目の作業を実践した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ヒトと生物は、全体的な満足度も高い値(コースごとに、4.9 5.0)を示しており、講義の展開や工夫にある程度の評価を得たものと思う。更に、内容の充実や工夫を図っていきたい。栄養士の科学は、全体的な満足度が4.6で昨年度と同じ値になっている。今年度から必修となり、全員受講となったが、同じような評価を得てのは、内容を精査し工夫した結果だと思う。学生の能力差は大きく、やさし過ぎるという意見もあれば難しく理解できないという意見もある。化学の基礎が分からない学生に焦点を当てながらも、学んで楽しい講義を目指したい。卒業研究は予定通りに進行している。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科 目 名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|--------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| ヒトと生物 | 19S | 4.9 | 4.9 | 4.8 | 4.9 | 10.0分 | 4.9 |
| ヒトと生物 | 19L | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 30.0分 | 5.0 |
| 卒業研究 | 19Y | 4.9 | 4.8 | 4.8 | 4.8 | 30.0分 | 4.7 |
| 栄養士の科学 | 20S | 4.5 | 4.5 | 4.4 | 4.3 | 53.2分 | 4.6 |

| 科 目 名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|--------|------|------|------|-------|-----|--------|---|-------|---|------|---|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| ヒトと生物 | 19S | 選択必修 | 19 | 89.7 | 15 | 78.9% | 3 | 15.8% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| ヒトと生物 | 19L | 選択必修 | 2 | 100.0 | 2 | 100.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 栄養士の科学 | 20S | 必修 | 23 | 84.9 | 14 | 60.9% | 4 | 17.4% | 1 | 4.3% | 3 | 13.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義と演習のためアクティブラーニングは実施していない。オフィスアワーでは、栄養士の科学の件(講義内容に対する質問)で来室があまり説明を行なった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

ヒトと生物は、さらに内容の精選と充実を図り、地球環境や生態系について話をしていきたい。栄養士の科学は、栄養士を目指す学生にとって必要な化学の基礎を学ぶ時間と認識し、苦手な学生のための講義を実践していきたい。卒業研究は新たな目標を開発していきたい。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

乳児保育は適宜、視聴覚教材を使用することにより、子どもの成長・発達、病気に関することなど、具体的にイメージしやすかったようだ。座学ばかりではなく、グループワークなどを取り入れ、時間の許す範囲で発表の機会を作ったが、多人数のため全員に発表の機会は与えられなかった。演習においては、実技試験不合格の学生には、授業以外の時間で個別対応を実施した。その結果、実習前には、ほぼ全員が一定レベルに達したと考える。前回課題としていた実技試験後の時間の使い方が、手順や注意事項記入用紙を記入してもらうことで改善した。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1. 保育者に必要な知識や技術について、興味や意欲を持ち、自主的に学べるような授業を展開する。
2. 学生自らが考え、発言できるような授業の工夫を行う。
3. 良好な人間関係の構築に努め、学生が相談しやすい環境を作る。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

乳児保育は視聴覚教材を使用した。コロナ禍で座学や個人作業が多くなり、子どもの発達段階などが具体的にイメージしにくかったようだ。また密の状態を作らないために、例年のようにグループワークなどを取り入れることができなかった。子どもの保健演習においては、授業態度が良く理解が早く、個別で練習を重ねている学生が多かった。実技試験後の時間の使い方が、手順や注意事項記入用紙を記入してもらい、物品の片づけまで行えた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業評価アンケートでは演習は4.6の評価となっている。記入用紙を導入し、毎回添削しながら、実習前に学生全員に返却するようにした。手順や注意事項の確認などができてよかったのではないかと考える。乳児保育は視聴覚教材を使用した。グループで考え発表することができなかった。今回は評価が下がったのではないかと考える。今後は座学における講義内容の工夫をしながら、理解しやすい授業を目指したい。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科 目 名 | 対象 学年 | 内容や レベル | 教員の 教え方 | 学生の 学習意欲 | 学生の 理解度 | 授業外 学修時間 | 全体的な 満足度 |
|----------|----------|------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|
| 乳児保育 | 20Y | 4.3 | 4.3 | 4.2 | 4.0 | 56.7分 | 4.2 |
| 保育実習指導Ⅰ | 19Y | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 32.4分 | 4.6 |
| 子どもの保健演習 | 19Y | 4.7 | 4.7 | 4.7 | 4.6 | 43.8分 | 4.6 |

| 科 目 名 | 対象 学生 | 必修 選択 | 履修 者数 | 平均 点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|---------|-----|------|----|-------|----|-------|---|------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 子どもの保健演習 | 19Y | 選択 | 103 | 75.8 | 2 | 2.0% | 48 | 47.1% | 40 | 39.2% | 9 | 8.8% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングは、個人の調べ学習はできたが、グループワーク、まとめ、発表という形がコロナ禍で実施不可能であった。オフィスアワーは空き時間にはすべて受け入れるようにしていたが、基本授業日だけしか短大にいないため、昨年までと比較すると、あまり活用はできていなかった。

6. 次年度目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

密を避けながら、例年のように知識や技術の習得ができるように授業内容を考える。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

しっぽ取りや小麦粉粘土遊びなど、実際の遊びを通して保育内容を理解する取り組みを取り入れたり、グループで遊びの計画を立て実践したりした。具体的に動くことで学ぶ方法を多く取り入れたことで学生の満足度や授業内容の理解が進んだと思われた。ただ、グループでまとめた作品や提出物は一人ひとりの評価には十分に活用できない点が課題として明らかになった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

「遊びの文化」を1年後期から1年前期に開講し、保育実践に直接活かせる内容を短大での学びの初期段階から積み重ねられるようにする。現場での実践を意識した学びが得られると考える。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

これまで通り、鬼ごっこや粘土遊びを取り入れて遊びを経験することで保育内容や子どもの思いを経験する機会を持つ。さらに、児童文化財の活用法と作成を通して、現場での実践や子どもの姿を想像しながら保育準備を進められるようにする。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ほとんどの科目を動画による遠隔授業で行った。成績は、昨年度までの対面授業で行ったサイト差は見受けられないが、学生の満足度はすべて下がっている。このことから、学生のほとんどが対面授業を望んでいると思われる。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|-------------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| | | | | | | | |
| 保育実習指導 I | 19Y | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 32.4分 | 4.6 |
| 保育実習指導 I | 20Y | 4.0 | 4.0 | 4.1 | 3.9 | 46.6分 | 4.0 |
| 保育実習指導 II | 19Y | 4.5 | 4.5 | 4.6 | 4.6 | 33.7分 | 4.5 |
| 保育方法論 | 19Y | 4.4 | 4.4 | 4.4 | 4.3 | 40.5分 | 4.3 |
| 卒業研究 | 19Y | 4.9 | 4.9 | 4.9 | 4.9 | 49.1分 | 4.8 |
| 子どもと環境 | 20Y | 4.0 | 4.1 | 4.0 | 3.8 | 55.5分 | 3.9 |
| 遊びの文化 (指導法) | 20Y | 4.1 | 4.1 | 4.2 | 4.0 | 73.1分 | 4.1 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|-----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 保育内容総論 | 20Y | 必修 | 94 | 71.8 | 4 | 4.3% | 18 | 19.1% | 26 | 27.7% | 45 | 47.9% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 保育方法論 | 19Y | 選択 | 103 | 76.6 | 15 | 14.7% | 40 | 39.2% | 20 | 19.6% | 24 | 23.5% | 1 | 1.0% | 0 | 0.0% |
| 子どもと環境 | 20Y | 必修 | 94 | 75.5 | 4 | 4.3% | 34 | 36.2% | 28 | 29.8% | 28 | 29.8% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 遊びの文化 (指導法) | 20Y | 選択 | 94 | 81.5 | 11 | 11.7% | 49 | 52.1% | 30 | 31.9% | 4 | 4.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

遠隔授業となったことで、遊びの実践としてグループでの遊び (鬼ごっこ) が行えなかったが、小麦粉粘土遊びは例年通り取り入れた。短大周辺を探索して、みなで自然環境マップを作成する取り組みを予定していたが、対面授業ができなかったため、め学生自身が通った圏の自然環境マップ作りを取り入れた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

対面授業により学生の学びが広がったり深まったりすることが分かったが、遠隔授業でも学生が満足できる内容を模索する必要がある。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度は前任者による集中講義が主であった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

- ・学生の造形への意識を把握し、学年に見合った授業の進め方や内容の検討を行う。
- ・造形活動に意欲的に取り組めるような課題の設定や、保育者としての造形活動を肯定的にとらえることができる授業基盤を確立する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1年「子どもと表現(造形)」では、造形の基礎的な技法や、保育者として必要な用具の使い方を獲得する。
 2年「子どもの絵と製作(指導法)」では、実際に模擬保育を計画し、実習にむけての具体的な造形活動の練習・気づきの場とする。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

「造形表現が好きになった」「分かりやすかった」など、概ね満足の学生が多かった。1年生よりも2年生の方が満足度が高いのは、実際に保育の場面で使える造形が多かったからではないかと考える。
 流し場が人数に対して少なく、片付けに時間がかかってしまうことを考慮して、少し早めに片付けの時間に入ることを検討したい。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|---------------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 保育実習指導Ⅰ | 19Y | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 4.6 | 32.4分 | 4.6 |
| 保育実習指導Ⅰ | 20Y | 4.0 | 4.0 | 4.1 | 3.9 | 46.6分 | 4.0 |
| 保育実習指導Ⅱ | 19Y | 4.5 | 4.5 | 4.6 | 4.6 | 33.7分 | 4.5 |
| 卒業研究 | 19Y | 4.7 | 4.6 | 4.8 | 4.7 | 8.2分 | 4.5 |
| 子どもと表現(造形) | 20Y | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 47.1分 | 4.3 |
| 子どもの絵と製作(指導法) | 19Y | 4.7 | 4.7 | 4.7 | 4.7 | 31.8分 | 4.7 |
| 遊びの文化(指導法) | 20Y | 4.1 | 4.1 | 4.2 | 4.0 | 73.1分 | 4.1 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修 選択 | 履修 者数 | 平均 点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|---------------|------|----------|----------|---------|-----|-------|----|-------|----|-------|---|------|---|------|-------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W(脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 子どもと表現(造形) | 20Y | 必修 | 94 | 77.8 | 7 | 7.4% | 32 | 34.0% | 49 | 52.1% | 6 | 6.4% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 子どもの絵と製作(指導法) | 19Y | 必修 | 104 | 75.8 | 5 | 4.9% | 40 | 38.8% | 49 | 47.6% | 6 | 5.8% | 0 | 0.0% | 2 | 1.9% |
| 遊びの文化(指導法) | 20Y | 選択 | 94 | 81.5 | 11 | 11.7% | 49 | 52.1% | 30 | 31.9% | 4 | 4.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

2年の授業はグループワークの占める時間が多く、それぞれが能動的に課題に取り組んでいた。
 1年の授業は、個々で作品を仕上げるが多かった。その技術を活かして、1年後期の「子どもの絵と製作」では主体的な活動に重点を置いていきたい。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

- ・製作にかかる時間や、個々の作業のペース、分野による知識の有無が分かってきたので、授業構成に活かしていく。
- ・次の授業の内容を伝え、事前に作品の構想を練るなど、授業に取り組む前段階での働きかけを工夫する。

| 令和 2 年 前 期 | | 授業評価報告書 | | 氏名 | 安部 恵代 | | | | | | | | | | | |
|---|------|---------|------|--------|---------|--------|---------|---------|----|-------|---|------|---|------|--------|------|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 前年度の授業評価報告書では、さらに学生の興味、意欲を引き出すような授業内容に心がけることが課題としてあがっていた。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 自発的に学ぶ機会を増やす。 (2) 学生の興味を引き出すことを意識する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 各テーマについて、予習時、修了時に小レポートを提出させることで、自分で調べてまとめる機会を多くもたせるとともに、授業において理解度に合わせてフィードバックを行った。(2) 極力わかりやすい言葉で、実例を挙げて授業を行うよう配慮した。また参考図書などの紹介や、調べ物の仕方の指導も行った。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果は特に問題ないとする。医学知識は膨大であり、高等学校での生物の理解状況にも差があると思われるので、理解が難しい部分もあったと思われるが、おおむね、意欲的に授業に参加できており、レポートも興味をもって取り組んでいたようである。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 | | | | | | | | |
| 医学一般 | 20L | 4.1 | | 4.0 | 4.4 | 4.0 | 55.9分 | 4.2 | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 医学一般 | 20L | 選択 | 22 | 81.8 | 3 | 13.6% | 9 | 40.9% | 10 | 45.5% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対面授業が困難であった状況もあり、アクティブラーニングとしては今回実施していないが、講義予習の形でのレポートを取り入れ、自ら学び、疑問点を見つける意識を身につけさせることを心掛けた。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 自発的な学びを促す方法を検討する。 (2) 学生の興味を引き出すことを意識する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

今年度が初担当であるため記載なし。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

PLAN: 到達目標を達成する
 【到達目標】
 ①食品中の水分の構造と性質について説明できる。
 ②5大栄養素の化学構造と性質について説明できる。
 ③調理、加工、貯蔵における食品の成分変化について説明できる。
 ④食品の一次機能について説明できる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

到達目標を達成することを目的に、シラバスに沿って授業を実施した。また、高校理科の履修状況や短大での他の履修科目（主に、食べ物と健康、人体の構造と機能の分野）のつながりを意識しながら授業を展開した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業評価アンケートおよび定期試験の結果から、学生の理解度ならびに授業環境は概ね良好であると思われた。また、学修のポイントが押さえられていて確実に知識が定着したと推察された。しかしながら、一部学生の知識の定着が不十分であり、加えて授業外の学修時間が少ないので、次年度は充実した学修活動を促したい。以上のことから、良い点は現状を維持しつつ、知識の定着が不十分である学生を早い段階で認知し、学修のフォローを充実させていくことが次年度に向けての課題である。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | | 学生の理解度 | | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|-----------------|------|--------|--------|---------|-----|--------|-----|---------|---------|
| | | | | 人 | % | 人 | % | | |
| 食品学 I (食品成分の科学) | 20S | 4.1 | 4.1 | 4.0 | 4.0 | 36.8分 | 4.3 | | |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|-----------------|------|------|------|------|-----|-------|---|------|---|-------|---|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 食品学 I (食品成分の科学) | 20S | 必修 | 23 | 88.3 | 14 | 63.6% | 2 | 9.1% | 3 | 13.6% | 3 | 13.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニング（以下ALと略記）は「具体的・直接的コミュニケーション」であると捉えている。したがって手法にこだわらず、学生と教員間で具体的・直接的コミュニケーションがなされているのであれば全てそれはALであると考えている。担当授業では、常に双方向型（学生⇄教員）の展開を意識して授業を実施した。そのことによって、学生の理解度などを常にチェックしながら授業の進行をができた。しかしながら、全ての学生に目が行き届いていなかったことが次年度に向けての改善点である。今回が初担当であったということもあり、学生一人一人の情報を十分に把握できていなかったが、15回の授業ならびに定期試験の結果から、ある程度把握できたので次年度に向けての授業設計に活かしたい。オフィスアワーは実施していない。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

シラバス記載の授業方法について、①「講義形式で進めるが、ディスカッションを入れながら学生の主体性を引き出す。」②「毎回予習と復習を兼ねた課題プリントを配布する。」としており、①については実行できたが、②については実行できなかった。そのことが、一部学生の知識の定着が不十分であったことの要因のひとつであると考えられる。したがって、受講学生全ての理解度を授業進行にあわせて常に確認するために、次年度は予習と復習を兼ねた課題を課し、その結果をフィードバックすることで、学生一人一人の理解度を確認しながら確実に知識の定着を図りたいと考えている。

| 令和 2 年 前 期 | | 授業評価報告書 | | 氏名 | 和泉 喬 | | | | | | | | | | | |
|--|------|---------|--------|---------|--------|---------|---------|------|----|-------|----|-------|---|------|--------|------|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 前年度の講義はLと合同の講義であったが、二つのコースで成績にやや差がみられた。学年の差がみられたのかもしれない。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特に、保健統計と疫学について集中的に授業を進めた。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小テストを実施し、本試験のレベルを知ってもらった。それにより理解できていないところや講義漏れの箇所を解説した。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 新型コロナの影響で、講義期間が不規則になってしまった。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 | | | | | | | | | |
| 公衆衛生学 | 19S | 4.1 | 3.9 | 4.0 | 3.6 | 40.7分 | 3.9 | | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 公衆衛生学 | 19S | 必修 | 29 | 71.9 | 1 | 3.6% | 2 | 7.1% | 15 | 53.6% | 10 | 35.7% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特に実施していない。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 必修科目でもあるので、取りこぼさないよう取り組むことが大切である。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

講義科目である解剖生理学の内容についての理解度を深めるために、授業内容との関連を自分自身に当てはめて実感することを挙げた。また、環境の変化に対する順応性についての理解をさらに進めて、実感できるようにした。さらに自分の身に起きることをか約款席に且つ説明的に把握できることをあらたに求めた。ある程度は達成できたが、特に他者への説明については十分とは言えなかった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

前年度に引き続き、人体の構造と機能の相関について理解することと、それを自分自身のこととして客観的に捉えることを目指す。また、環境への順応性についてはある程度理解できるようになっており、さらに理解を進める。しかし、他者への説明の力はまだまだ身についておらず、前年度のやり残した課題として今年度へつなげたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

特に今年度は実習前に授業の目的を十分周知することに努め、実生活に遭遇する状況を実感をもって感じてもらえるように準備を行った。また、レポートをまとめる際にグループでの統一した考え方がなければ、実習の遂行は勿論、レポートも出来上がらないことを強調する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

昨年と比べると、評価自体はランクAが増えて、ランクS及びBが減少した。これはむしろクラスとして一定の標準的な目的の達成度が上がったことが考えられ、良い傾向であると思っている。特に、内容のレベルに対する評価や、教員の教え方、そして何より、学生の学習意欲や理解度が0.5ポイント以上上昇しており歓迎すべきことである。これには協力してくれた助手の貢献や、この学年の持つ雰囲気などの影響も考えられ、教育における教職員一体となった体制づくりも重要であることを実感する次第である。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | | 学生の理解度 | | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|---------|------|--------|--------|---------|-----|--------|-----|---------|---------|
| | | | | 人 | % | 人 | % | | |
| 解剖生理学実習 | 19S | 4.5 | 4.5 | 4.6 | 4.4 | 83.6分 | 4.4 | | |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評価 | | | | | | | | | | | |
|---------|------|------|------|------|----|-------|----|-------|---|-------|---|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 解剖生理学実習 | 19S | 選択 | 29 | 78.1 | 3 | 10.3% | 15 | 51.7% | 7 | 24.1% | 3 | 10.3% | 0 | 0.0% | 1 | 3.4% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実習項目ごとに、グループに割り当てた発表会の準備に十分考察と準備の時間を与えている。また、発表に際しては口頭発表が全員平等に分担し、より分かりやすい説明を求めていることと、実例を日常にとったテーマにすることも気にかけた。しかし、学生同士の質疑応答や少し突っ込んだ教員の質問には残念ながら対応できなかった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

毎年改善はみられるものの、特に人体に起きる様々現象を身近なこととして捉えるには十分ではなく、特に説明的に理解をすすめるのは容易ではない。しかし、来年度も粘り強く実習を行っていくことで講義科目の仕上げとしたい。

| 令和 2 年 前 期 | | | | 授業評価報告書 | | | | 氏名 | | 鶴川 佐由美 | | | | | | | |
|---|--|------|--------|---------|--------|---------|---|--------|---|---------|---|---------|---|---|---|--------|---|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 限られた時間内での密度の濃い適切な指導を行う。 学生のレベルにあった奏法を学生自らも考えられる指導が課題にあがっていた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ①基礎理論を理解し、保育現場での生活の歌や季節の歌の弾き歌いを音楽的に表現できる。 ②独自の曲集・エチュードを進めていく。 ③表情豊かに明るく楽しく歌うことができる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ピアノ演奏指導・・・個々のレベルに合うエチュード集・曲集等を選別し奏法指導、子どもの歌の伴奏を個々に合うレベルに編曲し奏法を指導。 歌唱指導・・・どう体を使って歌うか、伴奏と歌のバランスを指導する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アンケート結果より特に問題はないと思う。授業外学修時間が1年生より2年生が多いことから1年生の練習の必要性をもっと感じないといけないと思う。年々初心者が増えるので、完成度の高い演奏となるにどうしても簡易伴奏になってしまう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目名 | | 対象学生 | 内容やレベル | | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | | 学生の理解度 | | 授業外学修時間 | | 全体的な満足度 | | | | | |
| 保育と音楽表現 | | 19Y | 4.4 | | 4.4 | 4.0 | | 4.2 | | 144.0分 | | 4.2 | | | | | |
| 子どもの歌と伴奏法 | | 20Y | 4.1 | | 4.1 | 4.3 | | 4.1 | | 92.1分 | | 4.0 | | | | | |
| 科目名 | | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業後、圖から出題された課題などを範奏、指使い指導をした。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自分自身の演奏レベル到達までかかる時間を、日頃の練習、テストでの結果から考えるようになってほしい。計画を立てた練習スケジュールを指導したい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 令和 2 年 前 期 授業評価報告書 | | | | | 氏名 | 内田 誠 | | | | | | | | | | |
|--|------|--------|------|--------|---------|--------|---------|---------|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| やる気を引き出せるよう、言葉かけに気を付けて指導した結果、自主的に取り組める学生が増加。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 与えられた課題以外にも積極的に取り組めるよう指導。まずは学生が楽しめる選曲等工夫。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生同士の演奏や歌を聴きあうことで、更なる意欲向上を目指して実施。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教員の教え方のポイントがまだ低いので、更にわかりやすく丁寧な指導を目指します。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 | | | | | | | | |
| 探育と音楽表現 | 19Y | 4.7 | | 4.5 | 4.8 | 4.7 | 127.5分 | 4.8 | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実施していない。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ピアノ未経験者が増えていることから、使用テキストの変更も視野に計画を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

学生の置かれている状況や環境（ピアノの有無、練習時間）は様々であり、一人一人の能力や進度に合わせた的確なアドバイスがより必要であると感じている。
学生とのコミュニケーションを図りながら、レッスンの工夫や見直し“寄り添った指導”を引き続き実践していきたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ①基礎理論を理解し、読譜することができるようになる。
- ②バイエル教則本を終了する。
- ③保育現場の必要な曲（生活の歌）、幼児の歌の弾き歌いを習得する。
- ④簡易伴奏法の習得。（コード奏法の基礎）
- ⑤表情豊かに明るく楽しく歌えるようになる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①ピアノによる個人レッスンを実施し、学生一人一人の進度や能力に応じたアドバイスや指導を心がけた。
②歌唱レッスン（生活の歌、幼児の歌）においては、コロナ禍につき、通常どおりの形態（グループでの合唱・指導）は取れなかったが、その分、曲の背景や情景を皆で想像し、発表したり、また、歌詞の意味をより深く理解する他の時間（説明）や鑑賞による授業を多く取り入れた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

前期は、コロナの影響により、なかなか通常どおりのレッスン（個室での歌唱・合唱など）ができなかった。しかしながら、限られた時間の中で集中して真剣に授業を受ける学生の姿は頼もしく、また、自ら授業以外にも個人レッスンを志願する学生が多く見られたことはとても嬉しいことだった。そんな学生の「やる気」や「気持ち」を大切に、配慮しながら後期も指導をしていきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科 目 名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|-----------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 保育と音楽表現 | 19Y | 4.8 | 4.7 | 4.8 | 4.7 | 92.7分 | 4.7 |
| 子どもの歌と伴奏法 | 20Y | 4.6 | 4.6 | 4.4 | 4.6 | 69.0分 | 4.6 |

| 科 目 名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施していない。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

前期は、ピアノのレッスンが中心だったので、後期では「歌う」時間を増やし、正しい音程・リズム・テンポを習得するとともに、明るく笑顔で楽しんで弾き歌いができるように実践を併いながら指導していきたい。

| 令和 2 年 前 期 授業評価報告書 | | | | | 氏名 | | 尾崎 好子 | | | | | | | | | |
|--|------|--------|------|------|--------|---------|-------|--------|---------|---------|---|------|---|------|--------|------|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>成績分布を見る限りほとんどの受講生がS評価で理解度も高かった。 アンケート結果からもよく学びよく準備しおおかた満足のいく講義ができた。 授業外学習時間も数字を見る限りとても努力していることが分かり、資格試験に向けて高い意欲がうかがえる粒ぞろいの学生たちだったという印象を受けた。 学生の能力に甘んじることなく見やすい板書、聞きやすい声、学ぶことが楽しいと感じる講義を行いたいと思う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(1) 見やすい板書を心掛ける。 (2) 講義の速度に気を付ける。 (3) 理解度を確認しながら置いて行かれる学生がいない様に気を付ける。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(1) レセプト演習を交えながら解説を行い講義を進める。 (2) 分からない箇所があれば質問を受け付ける。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学生による授業評価アンケートの結果から講義方法に問題はないように思う。 成績分布もほぼ高評価で受講態度もよく意欲的に講義に挑んでいたように見受けられた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | | | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 | | | | | | |
| 医療事務実技 | 19L | 4.6 | | | 4.7 | 4.7 | | 4.6 | 62.1分 | 4.7 | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 医療事務実技 | 19L | 選択 | 16 | 98.6 | 15 | 100.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>分からないことがあれば講義の合間に質問を受け付けていた。 積極的な学生は進んで質問に来たが、受動的でおとなしい学生は難しかったかもしれない。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(1) 受講した学生全員が評価Sで単位修得できるような講義が行えるように講義資料や講義方法を考えていきたい。 (2) 全員が医療管理秘書士に高得点で合格できるよう、ひとりひとりの理解度を把握し、丁寧な指導を心掛けたい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 令和 2 年 前 期 | | 授業評価報告書 | | 氏名 | 金 英 泰 | | | | | | | | | | | |
|--|------|---------|------|--------|---------|--------|---------|---------|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>本科目の授業・教育目標は、アンケートの結果および授業成績からも、おおむね到達していると思われる。小テストなどを取り入れ、各自の習得レベルを確認しながら、授業を展開する。</p> <p>ハングルの教科書の内容を各自で声を出して読ませている。一方的に教員の発音を聴くのではなく、学生自らも実際に発音し、教員のアドバイスをその都度、受けている。このような参加型学びが効果を上げていると思われる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>①授業中に小テストやグループ学習等を導入し、主体的な学びを取り入れる。</p> <p>②文化体験として、韓国の料理作りを体験する。文化祭等で韓国料理を創作・発表など参加型体験を行う。</p> <p>③学生の参加型授業をさらに充実させ、ひとりひとりにきめ細やかな指導を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>語学の授業であることから、読み、書き、話す、聞く、の基本的なリテラシーに重点を置きながらも、楽しく、親しみやすいように、韓国音楽、映画、伝統文化などもとり入れる。また、学生が主体的に調べて発表する形式もとり入れていく。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学生による授業評価によるアンケートの平均では、内容やレベル4.2、教員の教え方4.3、学生の学習意欲4.2、学生の理解度4.0、全体的な満足度4.3であった。</p> <p>語学においては、各人の関心度によって、科目の到達目標に対する到達度が違っている。授業の目標に向かって、学生全員が努力できるような教育環境を整える。今後も、導入段階から、各人の理解度を確認しながら、授業を展開していく。授業の具体的工夫としては、テキストの内容について十分に理解できるよう、教員が大きな声を出しながら学生に読み聞かせている。さらに、すぐに学生に復唱させ、正しいハングルの発音ができるまで確認している。また、その都度、大きな文字を板書し、ハングルの発音構造を説明している。今後もこのようにきめ細やかに授業を行っていく。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象学生 | 内容やレベル | | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 | | | | | | | | |
| 韓国語 | 20S | 4.2 | | 4.5 | 4.1 | 4.0 | 15.0分 | 4.4 | | | | | | | | |
| 韓国語 | 20L | 4.3 | | 4.3 | 4.2 | 3.9 | 35.0分 | 4.4 | | | | | | | | |
| 韓国語 | 19Y | 4.2 | | 4.0 | 4.2 | 4.2 | 30.0分 | 4.0 | | | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>アクティブラーニングとしては、一方的に教えるのではなく、学生の参加型の授業を展開している。具体的には、韓国語の発声を自ら行わせ、正確にできるまで、練習をさせている。また、インターネットを使った教員とのやり取り、課題提出を必須としている。オフィスアワーとしては、毎回の授業後に設定している。授業について、学生から質問等があればその場で詳しく説明し、一緒に演習している。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>①すべての学生が理解できるように、基本的な事項を重点的に授業に取り入れる。</p> <p>②初期段階から、授業中に小テストを導入する。</p> <p>③グループ学習等を導入し、主体的な学びを取り入れる、課題発表など。</p> <p>④文化体験として、韓国の料理作りなど、参加型を体験する。(文化祭等で韓国料理を創作・発表)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

新型コロナの影響で、計画通りにできなかった部分があった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

後半はできるだけ今年度の目標を達するように学生と一緒に頑張っていきたいと思います。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

さらに毎回の日常会話練習の充実をしたいと思います。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

教科書以外の常用単語を少しずつ覚えさせたいです。

| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | |
|-------------------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 科 目 名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
| 中国語 | 20S | 3.0 | 3.5 | 3.0 | 4.0 | 15.0分 | 3.0 |

| 科 目 名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施なし。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

テキスト以外、より実用的会話を出来るようにする。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

- ・ 講義部分の難易度が課題だった。
- ・ 実技に関しては、動画やPPT活用しての指導は効果的だった。
- ・ 欠席した学生への指導方法が課題。
- ・ ろう者を招いての講義や、コミュニケーション体験は非常に効果的で、学生の自信につながった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・ 実技が中心となるので学生同士でのコミュニケーション体験を多用する
- ・ 講義テキストを刷新し、予習、復習に取り組みやすくする
- ・ ろう者が使う視覚的言語を、直接見ることで手話を身近に感じてもらう
- ・ ろう者とのコミュニケーション体験を通して、社会人となった時に積極的に手話を使いコミュニケーションできることを目指す

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・ 学生同士2～3名でコミュニケーション体験、手話での発表を毎回取り入れた
- ・ 手話のDVDを活用し、様々なろう者の手話を見てもらった
- ・ シミュレーションで聴覚障害者への対応を学ぶ際の想定を具体的に設定し、手話の語彙数を増やす

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ・ 席順を自由ではなく、番号順に固定したため、私語が少なく集中して授業に臨んでおり、実技では積極的に手を動かし、発表も臆さず行っていた
- ・ 授業中にも反応が薄く、質問もあまりしない学生が数人おり、それらの学生は語彙の習熟度も、成績評価も低かったので、どのように積極的に授業に取り込むかが課題
- ・ コロナ禍により休講となりせっかく習った単語を忘れてたり、コミュニケーション体験を実施できず申し訳なかった

学生による授業評価アンケートの結果

| 科 目 名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | | 学生の理解度 | | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|-------|------|--------|--------|---------|-----|--------|-----|---------|---------|
| | | | | 人 | % | 人 | % | | |
| 手話講座 | 20L | 4.5 | 4.4 | 4.4 | 4.4 | 4.4 | 4.4 | 50.9分 | 4.4 |

| 科 目 名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|-----|-------|---|-------|---|-------|----|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 手話講座 | 20L | 必修 | 23 | 74.0 | 3 | 13.0% | 6 | 26.1% | 3 | 13.0% | 11 | 47.8% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・ 小テストや定期試験前には、積極的に質問があったので、学習の重要箇所を伝達した
- ・ 毎日の生活の中でも、新聞や図書館の活用を勧めるようにして、個別の質問に対応した

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・ 配席は今年同様出席番号順とし、後方の学生も積極的に授業に向き合えるように、途中で前方との入れ替えを行う
- ・ 正確に語彙を増やすことを目標に、小テストの回数を増やす
- ・ コミュニケーション体験を必ず実施し、通じる喜びを経験してもらう

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

毎授業スピーチをすることで状況に慣れ、恥ずかしさやあがることが減った。話の組み立てに関心をむけ、工夫することができた。グループでの意見交換では、自分が述べるだけでなく、他人の考えの良いところを認めることができた。課題として、コミュニケーションの取り方を深めるために、グループ、隣同士の意見交換を適宜取り入れ、自分と他人の距離感を考えるようにしたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1. 人前でのスピーチに早く慣れるようにする。
2. 新型コロナのため、できなくなった「発声発音練習、集団討論」の代わりに、「しぐさ」の重要性を授業に取り入れる。マスクをしてのスピーチに慣れる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1. マスクをしての授業では、表情などの情報量が減るので、「印象に残るスピーチ」とはどういうものか考えるよう促しながら授業を進めた。
2. ミニレポートでは前回の問題点を意識しながら作成させ、成長する喜びを感じられるようにした。
3. マスクでのスピーチに自信がない学生のために毎回教務課にマイクを準備してもらった。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

マスクで聞きとりにくいクラスメートに対して、聴く側の態度が非常に暖かく、クラスが良い雰囲気であった。スピーチは「届けるもの」「受け取るもの」と体得できたと思う。休講分の課題レポート「私のコミュニケーションの傾向」を提出したことで、授業への目標を学生も私も具体的に立てることができ、毎授業後に作成するミニレポートでアドバイスすることができた。昨年度より人数が少ない分、スピーチへのアドバイスを時間を使い丁寧にした。スピーチテーマを身近なものにすることで、学生が無理なく興味を持てるようにした。マスク着用はこれからも続くと思うので、発音、早さ、しぐさなどに力を入れ伝える力をつけたい。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科 目 名 | 対象 学生 | 内容や レベル | 教員の 教え方 | | 学生の 学習意欲 | | 学生の 理解度 | | 授業外 学修時間 | 全体的な 満足度 |
|---------------|----------|------------|------------|---|-------------|---|------------|---|-------------|-------------|
| | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | | |
| スピーチコミュニケーション | 20L | 4.7 | 4.7 | | 4.8 | | 4.7 | | 25.7分 | 4.4 |

| 科 目 名 | 対象 学生 | 必修 選択 | 履修 者数 | 平均 点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|---------------|----------|----------|----------|---------|-----|-------|----|-------|---|------|---|------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| スピーチコミュニケーション | 20L | 必修 | 23 | 85.9 | 5 | 21.7% | 18 | 78.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

質問はミニレポートで個人的に回答した。授業後に質問してきた学生にはその場に対応し、その後の授業でフォローしながら様子を見た。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1. マスク着用でも良好なコミュニケーションの取り方を身に着ける。
2. 人前に出ることに早く慣れるようにする。
3. 意見のやり取り、グループでの話し合いを三密に配慮しながら可能な限り体験させる。

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

学生が自ら学ぶ姿勢を身につけることが出来るよう、多くの練習方法を提示し、個々に合った練習方法を見つけ身につけさせること。また、毎回のレッスンで自分の課題を明確にし、出来た達成感を味わうことにより、さらなる意欲向上をはかることが課題にあがっていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①レッスン毎時の課題を学生自ら明確にし、課題達成を実現させる。
②実技以外では、保育者としての自覚を持たせるために、身なり、あいさつがいつでも出来るよう意識させる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

①レッスン初めにまず学生への声掛けを行い、実技の進行状況はもちろんだが、日々の学生生活の課題も含め学生の気持ちも把握し、課題達成のため一緒に考え取り組むよう心がけた。
②試験時、レッスン時、自分で状況を把握した上での身なり等、保育者になることを常に意識させる。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

実技に関しては、個々のレベルによる課題をそれぞれ持ち、取り組んでいたように思う。苦手意識を持つ学生もいたが、少しずつ弾けるようになる喜びを感じていたように思うが、レッスン以外での練習時間の確保、練習内容を身になるものにするのがやはり難しく、進捗があがらないという学生も見られ、今後の課題。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|-----------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 保育と音楽表現 | 19Y | 4.8 | 4.8 | 4.8 | 4.8 | 108.0分 | 4.8 |
| 子どもの歌と伴奏法 | 20Y | 4.2 | 4.5 | 4.1 | 4.4 | 75.0分 | 4.4 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

個人レッスンではあるが、2,3人のグループでの授業なので、学生同士で協力して頑張っていこうという取り組みが見られた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

練習内容の充実を持続することは難しいが、レッスン時はもちろん、レッスン以外時でも声掛けをし、学生が自ら学ぶ姿勢を促すことを心がけたい。

| 令和 2 年 前 期 | | | | 授業評価報告書 | | | | 氏名 | | 中嶋 浜子 | | | | | | | |
|--|--|------|--------|---------|--------|---------|---|--------|---|---------|---|---------|---|---|---|--------|---|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学生の力量に相応しい課題を与え、意欲喚起するよう励ますことを課題とした。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期同様、基礎理論を理解し、譜面から正しく読譜する。 ・ 保育現場に必要な生活・季節の曲を表現豊かに弾き歌う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎理論習得に苦手意識や不安を抱えている学生に対して、五線紙や図式を用いた分かりやすい説明を心掛けた。 ・ レッスン記録を常時携行させ、大切な事柄を忘れないよう書き留めさせた。 ・ 同一曲であっても、編曲によっては、作詞者や作曲者の意図を損なう危険性があることから楽譜の取り扱いには特に慎重を期するよう指示した。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生のアンケートからは、特に問題はないものと思われる。 ・ 実技科目のため、授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させる必要がある。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科 目 名 | | 対象学生 | 内容やレベル | | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | | 学生の理解度 | | 授業外学修時間 | | 全体的な満足度 | | | | | |
| 保育と音楽表現 | | 19Y | 4.6 | | 4.8 | 4.6 | | 4.7 | | 110.0分 | | 4.7 | | | | | |
| 子どもの歌と伴奏法 | | 20Y | 4.7 | | 4.2 | 4.9 | | 4.8 | | 110.0分 | | 4.6 | | | | | |
| 科 目 名 | | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの申し出により、練習方法や表現法を模範演奏したり、録画録音にも応じたりしてきた。 ・ 楽譜や資料の貸し出しにも広く対応している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで同様、正確なメロディー・リズム・ハーモニーを楽譜から読み取る力を付けさせるとともに、曲の素晴らしさや感動を伝えるために必要な表現方法や技能を身に付けるために必要な支援を丁寧に行う。 ・ 様々なジャンルの音楽に触れさせ、音楽には人の心を揺さぶり感動させる大きな力があることを学生に実感させる。そして、将来の保育現場において、その音楽の力を子どもたちにも体現させてあげられるような保育士へと成長できるよう支援する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 令和 2 年 前 期 | | 授業評価報告書 | | 氏名 | 長尾 久美子 | | | | | | | | | | | |
|--|------|---------|------|--------|---------|--------|---------|---------|----|-------|----|-------|---|------|--------|------|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>保育士資格の根拠法である児童福祉法や、関連法制度の理念や制度が理解できるように、現状の出来事に関連付けながら、学生が自ら考え、関心を持てるような授業を展開する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1 子どもと家庭を取り巻く状況と、保育士の役割が理解できるように、ニュースなどを取り入れる。 2 児童家庭福祉の理念、関連制度を理解できるようわかりやすい授業を展開する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1 当日授業内容のポイントを簡潔にまとめた配布資料 (両面 1 枚) に、学生自身が要点を補いながら受講する方法を取り入れる。 2 ニュースなど、身近でホットな話題や視覚教材を取り入れ、具体的に理解し、考える授業を展開する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1 前年度に比べ、授業評価アンケートの全項目が、大幅に (平均0.5ポイント) 低下している。学生の満足度を高められなかった。 2 平均点は、0.6点低くなったが、前年度は、Aが一番多かったが、今年度は、SとBが多く、成績の二分化が見られた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 | | | | | | | | |
| 児童家庭福祉 | 20Y | 3.8 | | 3.6 | 3.8 | 3.5 | 39.7分 | 3.6 | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 児童家庭福祉 | 20Y | 選択 | 94 | 79.7 | 29 | 31.2% | 23 | 24.7% | 30 | 32.3% | 11 | 11.8% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1 コロナの関係で、グループ活動や、学生の発言の場が少なかった。 2 オフィスアワーは、時間を取ったが活用はなかった。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1 学生の満足度高めるような授業展開を工夫する。 2 児童福祉法と保育士資格との関連性について理解し、求められる保育士像を把握できるようにする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

アンケートを見て感じるのは必修か選択によって数値が上下している点である。時事研究は必修で幼児教育の英語は免許必修であるため余り興味が持てずに履修している学生の存在が数字に表れていると思う。これらの学生の興味をひく工夫が更に必要である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

英語科目は各学期小テストを3回実施しておりその点数が成績の70%になっている。残りの30%は授業態度となっているがその内容を検討してみたい。また、それ以外の科目では発表及びペーパー提出で成績を付けているがこちらも一度考えてみたい。今年度は小テスト3回の点数を60%にして授業態度の評価を1割増やすことで配点の分布がどのように変化するかを見ている。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

今年度から幼児教育の英語は班編成からクラス編成に変更となった。その結果昨年まで一班35名ほどであった履修者が一クラス50名ほどに増加した。授業の中でプリントを使った読解の部分は人数変化の影響を受けていないと思うが、会話練習の部分はどうしても一人当たりの持ち時間が減ってしまう。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今学期はコロナ禍のため授業の連続性が崩れ心配したが最終的には学期内に終了することができた。特に半期終了の時事研究は5週間ほどにまたがる個別のプレゼンテーションがほぼ予定通りに終わり安堵した。アンケートの結果からも学生の達成感がある程度感じられる。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科 目 名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|-------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 時事研究 | 20L | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 3.8 | 33.9分 | 4.0 |
| 英語 | 20S | 3.5 | 3.8 | 3.5 | 3.7 | 42.0分 | 3.4 |
| 英語 | 20L | 3.9 | 3.5 | 4.1 | 3.8 | 56.7分 | 3.8 |
| 英語 | 19Y | 3.9 | 3.9 | 4.1 | 3.9 | 30.0分 | 3.9 |

| 科 目 名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|-----|------|----|-------|---|-------|---|------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 時事研究 | 20L | 必修 | 23 | 82.2 | 0 | 0.0% | 16 | 69.6% | 7 | 30.4% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

英語の授業内容に関する質問は授業直後に受けることが多い。今学期は時事研究のプレゼンテーションのテーマ及びやり方に関する質問も授業後に数件受けた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

時事研究の授業では社会の仕組みやシステムを理解することを目指している。その手段として新聞に目を通すことを勧めており、毎回授業の初めには当日の新聞一面を紹介するようにもしている。課題として上記のプレゼンテーションと新聞の投書欄に関するレポートを課している。レポートのテーマについては今一度考えてみたい。

| 令和 2 年 前 期 | | 授業評価報告書 | | 氏名 | | 西田 聖子 | | | | | | | | | | |
|---|------|---------|------|--------|---------|--------|---------|---------|---|------|---|------|---|------|--------|------|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 該当なし | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 診療録の基礎を理解させる。 (2) 学生にパワーポイントによる発表の機会を作る。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 実務で使っている、ICD-10、2巻、3巻及びDPC点数表を持参し（診療情報管理室・医事課の協力で学生分借用することができた）、実際に学生に手に取り使用されることで診療録管理、医療事務の理解が深まったと思われる。 (2) 今年度は新型コロナウイルス感染症により、病院の対応が大きく変わった年であった。その現場の臨場感を伝えるために病院現場の対応状況を写真で撮り（撮影許可済）、授業時に伝えることはまさに今病院で何が起きているのか、伝えることができたのは有効であったと思われる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果は特に問題はないと思われるが、成績分布は10月に行われる認定試験を見据えて考えると、もう少し点数を取ってほしい。認定試験と医療現場で覚えて欲しい内容のバランスが課題と思われる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 | | | | | | | | |
| 図書管理論 | 19L | 4.5 | | 4.5 | 4.3 | 4.3 | 82.5分 | 4.5 | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 図書管理論 | 19L | 選択 | 5 | 86.3 | 1 | 25.0% | 3 | 75.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| なし | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 実務で使っている、ICD-10、2巻、3巻及びDPC点数表は、次年度も活用していきたい。 (2) 今年度は新型コロナウイルス感染症等、まさに今病院で何が起きているのか、旬な話題も提供していきたい。 (3) 医療用語、医療法等、興味を持つよう指導していきたい。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度は、受講者数は5名と少なかったが、熱心に講義を受講していた。試験の結果、平均点が80.3点と言うかなり良好な成績をとっており、講義内容の理解はかなり進んでいると思われた。しかしながら、成績に大きな幅とむらがあり、本年度はこれを小さくするために、よきめ細かい講義を行う。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

今年度も受講生は7名と少数であるが、前年度と同様に、フードスペシャリストの責務、役割などについて、教科書を利用したきめ細かい講義を中心として理解させる。また、食品の鑑別、官能評価に関しても、教科書の範囲以外であるが、フードスペシャリスト認定試験の比重がかなり大きと考えられるので、プリントとパワーポイントを利用して、基礎的項目を理解させる。また、過去の試験問題を中心とする練習問題を多用して、講義の理解度をより深める。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

教科書の内容を簡潔に整理したパワーポイントを用いた講義を行うとともに、適宜、板書を行い理解を深めるよう工夫した。また、過去5年分のフードスペシャリスト認定試験の問題について、プリントを配布し、これを解かせることにより講義内容の理解に努めた。食品加工学や食品学の知識がやや不足していると思われたので、これについても、過去問題の解答を通して補足説明を行った。官能評価や鑑別の方法等についても補充説明を行った。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

受講者の数は5名と少なかったが、熱心に講義を受講していた。また、試験の平均点は91点と想像以上に高く、5名全員がSの成績をとっており、講義内容の理解は思った以上に進んでいると思われる。また、授業評価アンケートの結果から、講義の内容やレベルも適切であり、受講生の理解度も高い事が読み取れる。来年度は今年度と同様により細かい指導を行い、今年度以上に学生の理解を深めたい。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科 目 名 | 対象 学生 | 内容や レベル | 教員の 教え方 | | 学生の 学習意欲 | | 学生の 理解度 | | 授業外 学修時間 | 全体的な 満足度 | | | | | | |
|-------------|----------|------------|------------|---------|-------------|------|------------|-------|-------------|-------------|---|------|---|------|--------|------|
| | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | | | 人 | % | | | | |
| フードスペシャリスト論 | 19S | 4.9 | 4.7 | | 4.3 | | 4.7 | | 38.6分 | 4.6 | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象 学生 | 必修 選択 | 履修 者数 | 平均 点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| フードスペシャリスト論 | 19S | 選択 | 8 | 80.3 | 0 | 0.0% | 4 | 57.1% | 3 | 42.9% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

オフィスアワーに関しては、講義後、そのまま教室において、質問等に回答することによって対処した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

次年度より開講

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行い、意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

- (1) グループ活動をより多く取り入れ、さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上させる。
- (2) わかりやすい説明・活動内容の見直し、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生への対応を考え活動意欲が沸くようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1) 活動目標を各グループであげて、授業の終わりに自己評価するようにさせた。
- (2) 活動意欲が沸くような課題を出したり、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生には、動きの分析をしてわかりやすい説明・実技指導をしながら、一緒に課題克服を目指した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

実技を見せながら説明したり、動きの分析をすることによりスムーズに課題克服ができるようになった。学習記録で目標を決めさせることでより活動意欲高まり、授業終わりに活動の振り返りをし自己反省をすることで次の授業の意欲につながった。グループ活動を増やした結果、学生同士のコミュニケーションも上手にとることができ互いに教え合いながら実技習得をしていく姿も見ら自ら工夫して活動できるようになった。学習記録をチェックすることで学生の困っていることや意見など把握でき、コメントを書くことでより良いアドバイスができて学生ともさらにコミュニケーションが取れるようになった。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科 目 名 | 対象 学年 | 内容や レベル | 教員の 教え方 | 学生の 学習意欲 | 学生の 理解度 | 授業外 学修時間 | 全体的な 満足度 |
|--------|----------|------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|
| 体育実技 | 20Y | 4.3 | 4.5 | 4.5 | 4.4 | 16.3分 | 4.4 |
| 生涯スポーツ | 20S | 4.7 | 4.7 | 4.5 | 4.7 | 7.1分 | 4.6 |
| 生涯スポーツ | 20L | 4.8 | 4.7 | 4.8 | 4.8 | 13.8分 | 4.8 |

| 科 目 名 | 対象 学生 | 必修 選択 | 履修 者数 | 平均 点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|-----------|----------|----------|----------|---------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

コミュニケーションを上手く取れないとの相談にもアドバイスをして授業中も見守りながら声掛けをして楽しく授業ができるように導いた。授業後に実技課題など上手くできないと質問・相談があり、運動の分析の仕方・習得の方法を指導し、一緒にその課題克服を目指した。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

- (1) 実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
- (2) 学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。

| 令和 2 年 前 期 | | | | 授業評価報告書 | | | | 氏名 | | 宮崎 洋子 | | | | | | | |
|---|--|------|--------|---------|--------|---------|---|--------|---------|-------|---------|---|---|---|---|--------|---|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>楽譜に対するの苦手意識が取り組み方を進めるにあたって、ひとつの大きな壁になっているという課題があげられる。具体的なメニューを掲げ示してみても段取りや時間配分がうまく運ばなかった。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>人と比べることをせず、学生自身が念頭にそれぞれの課題を決めて、ミッションに取り組んでいく具体的に見える化する事も必要。課題は1つだけではないので、より多くの内容に注意を向け進めていく。常に自身と向き合って各自に合った過程を大事にしていく。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>初心者の学生は、バイエルの終了という目標を目指し、リズム・指使い・調性・読譜などの技術を段階的に増やしていく。長期的・短期的な目標を設定し、ズレが生じた場合は、その都度見直しして無理のないプランにしていく。経験者も過信せず、自分の方向付けがブレていないか確かめながら難易度を少しずつ上げていき、最後は達成感が得られるようにする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学生による授業評価アンケートの結果は、分布図を見ると特段注意を要する問題はないと思う。若干、子どもの歌と伴奏法が全体を通して数値が低くなっている。これは、緊急事態宣言下でなかなか授業がスムーズにできなかった事も一つの要因と考えられる。与えられた環境でその時出来るものを行動に移していき、高い学びを目指す力が必要。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科 目 名 | | 対象学生 | 内容やレベル | | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | | 全体的な満足度 | | | | | | |
| 保育と音楽表現 | | 19Y | 4.5 | | 4.5 | 4.6 | | 4.5 | 92.0分 | | 4.6 | | | | | | |
| 子どもの歌と伴奏法 | | 20Y | 4.2 | | 4.4 | 4.0 | | 4.6 | 90.0分 | | 4.2 | | | | | | |
| 科 目 名 | | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>iPadやスマホの活用・・・昼休みなど指導可能な時間帯に弾き方などについて説明した。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>新しい生活様式の中で保育者になるための教育を受ける環境をもう一度見直し、学生とのコミュニケーションを図りながら目標達成できるようにしていく。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 令和 2 年 前 期 | | | | 授業評価報告書 | | | | 氏名 | | 村川 千佳 | | | | | | | |
|--|--|------|--------|---------|--------|---------|---|--------|---------|-------|---------|---|---|---|---|--------|---|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1. ピアノの定期試験に向けての指導と並行して、就職後に役立つ内容为目标とした。</p> <p>2. 将来的に、保育の現場にて自信をもって指導できるよう、ピアノ・歌唱共に実力の向上を目指した。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>音楽の基礎力の育成と共に、豊かな音楽的表現についても指導する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1. ピアノ・歌唱における技術の向上及び音楽的表現の充実。</p> <p>2. 音楽の基礎的な力を身につける。</p> <p>3. 歌唱における発声法・発語・表現の指導。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>全くピアノを習ったことのない入門レベル、入学までに少しは学習した初級者、幼い頃から断続的にピアノを習ってきた中級者等、学生のピアノレベルは様々ながら、その全員が真剣にレッスンに取り組む姿勢が感じられた。指導者としては、今後も学生個々に必要なことを見極め、各人のレベルアップに尽くしたい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科 目 名 | | 対象学生 | 内容やレベル | | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | | 全体的な満足度 | | | | | | |
| 保育と音楽表現 | | 19Y | 4.7 | | 4.7 | 4.5 | | 4.6 | 81.8分 | | 4.6 | | | | | | |
| 子どもの歌と伴奏法 | | 20Y | 5.0 | | 5.0 | 5.0 | | 5.0 | 120.0分 | | 5.0 | | | | | | |
| 科 目 名 | | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業後(昼休み及び空き時間)に、熱心に質問に訪れる学生に対して、極力時間を提供した。また、授業を欠席した学生についても、時間を取り補講に努めた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1. 音楽基礎力育成のため、理解しやすい指導を。</p> <p>2. 表現する喜びを体感させ、それを将来的に現場で活かせるように指導したい。</p> <p>3. 実務に活用できる柔軟な音楽力・人間力の養成に努める。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 令和 2 年 前 期 | | 授業評価報告書 | | 氏名 | 村田 実智代 | | | | | | | | | | | |
|---|----------|------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|---|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な楽典の理解 ・ テクニックの向上 ・ 弾き歌いへの興味関心の強化 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽的素養、理解度、モチベーションが更に多様化しているため、教材選び、スピードに配慮する。 ・ コード奏法との関連を弾き歌いで実践する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽典の基礎知識の徹底 ・ 練習方法の反復 ・ コードを工夫する実践 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 出身高校で学んだ弾き歌いの重複が見られるため、指使いは必要とする範囲にとどめる。 ・ 意欲に基づいた教材、スピードの選択。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象 学生 | 内容や レベル | 教員の 教え方 | 学生の 学習意欲 | 学生の 理解度 | 授業外 学修時間 | 全体的な 満足度 | | | | | | | | | |
| 保育と音楽表現 | 19Y | 5.0 | 4.8 | 4.5 | 5.0 | 110.0分 | 5.0 | | | | | | | | | |
| 子どもの歌と伴奏法 | 20Y | 4.1 | 4.2 | 4.2 | 4.1 | 76.2分 | 4.0 | | | | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象 学生 | 必修 選択 | 履修 者数 | 平均 点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>より自分で考える指使い、コードの工夫を推進する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 注意すべき課題の把握。 ・ 反復練習の重要性を徹底する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 令和 2 年 前 期 | | 授業評価報告書 | | 氏名 | | 山浦 直子 | | | | | | | | | | |
|---|----------|------------|----------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>昨年度の授業評価報告書では、学生が自主的に楽しい気持ちでピアノに向かいたいくなるような工夫をすることを述べていた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学生の精神的な状態に気を配りながら、適切なアドバイスを心掛ける。 ・課題の学び方をより具体的に示して、自主練習が充実するような配慮を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・内田先生の授業内容と関連させたコードの練習を徹底させる。 ・それぞれの学生に今必要なテクニックの課題を毎時間準備する。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学生とは、ある程度心の交流もできるように感じられほっとしている。その先の成績向上につながるよう更に努力しなければならない。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象 学生 | 内容や レベル | | 教員の 教え方 | 学生の 学習意欲 | 学生の 理解度 | 授業外 学修時間 | 全体的な 満足度 | | | | | | | | |
| 子どもの歌と伴奏法 | 20Y | 4.6 | | 4.8 | 5.0 | 4.8 | 114.0分 | 4.2 | | | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象 学生 | 必修 選択 | 履修 者数 | 平均 点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>実施なし</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>2年生の実習に向けて、子どもの歌の弾き歌いに慣れるように自主練習の学び方をしっかり伝える。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 令和 2 年 前 期 | | 授業評価報告書 | | 氏名 | | 吉井 健二 | | | | | | | | | | |
|---|----------|------------|----------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|---|-------|---|------|---|------|--------|------|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>学生の学習力の向上に注力して取り組みました。科目が地味であり、学生がどうしたら興味を持ってくれるかを諸種動かし取り組み、一応の成果を上げることができたと思っています。さらに学習意欲の醸成に努力したい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>私の40年間ビジネスマンとしての実践経験を最大限に生かし、さらなる実践力の向上と即戦力化を目指し取り組みます。前年比質問の回数と事例を増やしてみたい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>実践力を重視し毎回プリントで課題と宿題を明確にし、理解力の向上に努めます。宿題のプリントの間違いをどのように訂正しているかを見るために、そのプリントを再提出させ理解力のチェックを行っています。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>事務管理という科目の性格を勘案すれば相応の評価ではないかと思えます。とはいえ、さらなる実践力の向上を資すべき40年間のサラリーマン生活の経験と蓄積を最大に生かし努力する所存です。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象 学生 | 内容や レベル | | 教員の 教え方 | 学生の 学習意欲 | 学生の 理解度 | 授業外 学修時間 | 全体的な 満足度 | | | | | | | | |
| 事務管理 | 19L | 4.3 | | 4.3 | 4.4 | 4.4 | 36.0分 | 4.4 | | | | | | | | |
| 科 目 名 | 対象 学生 | 必修 選択 | 履修 者数 | 平均 点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 事務管理 | 19L | 必修 | 29 | 87.1 | 20 | 71.4% | 4 | 14.3% | 3 | 10.7% | 1 | 3.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>演習として、配布しているプリントの内容で理解し難いところに注力し繰り返し繰り返し根気強く指導・アドバイスしさらなる実践力の向上を計っています。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>毎回のプリントをより丁寧に解り易く解説し実践力を身につけさせ社会人となったら即戦力になれますよと力説しながら、今学んでいることがいかに大切かをアドバイスし学習意欲の向上を計りたい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

一昨年度の授業評価報告書では学生に寄り添う教育の実践が課題となった。成績分布の結果では8割がC評価であったが昨年度はC評価は25%と減少した。これは事前の教科書の読み込みがなされた結果と考える。しかし、まだC評価が多いのが現実であるので今後も教科書に記載される専門用語の理解を促していくことが必要と思われる。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

生化学の解説に使用される専門用語の解説を丁寧に実施し、学生の理解度を向上させたい。そのために教科書の講義前の読み込みおよび理解できない文言の抽出と質問頻度を上げる。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

授業開始前に質問の時間を設けた。質問に答えながら当日の講義内容へ連続させていった。さらに、自宅での学習中の質問についてはメールアドレスを公開し常に学生からの質問を受け付ける体制を整えた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度は前年度に比して現在の学生評価はまだ低いが、学生の学習意欲は3.9から4.1に増加している。さらに時間外学習時間も前年度より12分ほど増加している。この科目は後期の生化学実験に連結するものであるから学生が前向きに興味がある分野を示し、下調べを行い、他者へ教授することができるようにすることが課題である。そのためにC評価の学生に対して自分が難しいと感じている部分をアンケート調査にて明確にしたい。判明した事項については時間の許す限り説明を繰り返し実施していきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科 目 名 | 対象 学生 | 内容や レベル | 教員の 教え方 | 学生の 学習意欲 | 学生の 理解度 | 授業外 学修時間 | 全体的な 満足度 |
|-------|----------|------------|------------|-------------|------------|-------------|-------------|
| | | | | | | | |

| 科 目 名 | 対象 学生 | 必修 選択 | 履修 者数 | 平均 点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|-------|----------|----------|----------|---------|-----|------|---|-------|---|-------|----|-------|---|------|--------|------|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 生化学Ⅱ | 19S | 選択 | 29 | 69.1 | 2 | 7.1% | 3 | 10.7% | 4 | 14.3% | 19 | 67.9% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

メールによる質疑は常に受信し、回答を繰り返した。その結果、一部の学生には教科書の読み込み、参考図書による調べができた学生が増加した。質問も多く出るようになった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善, PLAN: 計画)

前年度の授業評価報告書では学生に寄り添う教育の実践が課題となった。成績分布の結果ではF評価は0である。しかし、C評価が6.7%と多くを占めている。これは本試験の不合格者が多いためである。この原因としては教科書に記載される専門用語の理解が困難と思われる。次年度は生化学の教科書に使われる用語を判り易くすることで改善し、成績分布が左方へ推移させることが課題である。人体における生化学の知識が食事の基本に直結しており、疾患にも大きく関与していることが理解できるようにしたい。尚、知らなかったことを調べる。教える。質問を受ける。と一連の作業として捉えさせることで、興味を導き出すようにしたいと考える。

| 令和 2 年 前 期 | | 授業評価報告書 | | 氏名 | 吉田 高文 | | | | | | | | | | | |
|---|------|---------|--------|---------|--------|---------|---------|-------|---|------|---|-------|---|------|--------|------|
| 1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>昨年度はの授業評価報告書では、科目名「簿記会計学Ⅰ」では日本商工会議所簿記検定試験3級の受検を念頭に置きながら授業を進めていくこと、およびすでに3級以上の資格を取得済みの学生に対しては、さらに進んだ（アドバンスト）内容の学習に取り組めるように配慮することが課題としてあがっていた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1. 複式簿記の構造を理解する。 2. 簡単な財務諸表を作成できる。 3. 商業簿記と工業簿記の違いを理解する。 4. 日本商工会議所簿記検定試験3級の取得を目指す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>今年度6月の日商簿記検定試験は中止になったが、3級の内容理解を進める授業を行った。また、2級の内容である工業簿記や原価計算の基礎についても説明した。具体的な活動内容は以下の通りである。まず説明プリントと練習問題のプリントを配布し、必要なつど電卓を貸し出して計算させながら授業を進めた。練習問題のプリントは毎授業後回収し、理解度を確認後、翌週に一部添削して返却した。また、欠席した学生には、次週にプリントを配布して理解度を確保させながら授業を進めた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>科目名「簿記会計学Ⅰ」の昨年度（履修者数29人）の全体的な満足度は3.8であったが、今年度（履修者数23人）は4.0と改善した。また、授業外学習時間は昨年度の25.7分から今年度45.0分と大幅に増加した。これは新型コロナウイルスの影響もあるが、学生の学習意欲の高まりであると理解できる。その結果、昨年度はA評価以上の履修者割合は53.6%であったが、今年度は65.2%に増加した。なお、F評価や脱落者はいなかった。しかし、欠点者2人が再試験後合格となっており、次年度以降こうした履修者への対応が課題となる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学生による授業評価アンケートの結果 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学習時間 | 全体的な満足度 | | | | | | | | | |
| 簿記会計学Ⅰ | 20L | 4.1 | 4.0 | 4.4 | 3.9 | 45.0分 | 4.0 | | | | | | | | | |
| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| 簿記会計学Ⅰ | 20L | 必修 | 23 | 83.6 | 9 | 39.1% | 6 | 26.1% | 2 | 8.7% | 6 | 26.1% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>科目名「簿記会計学Ⅰ」では、教員による一方的な講義ではなく、学生に電卓で計算しながら問題を解かせるように進めた。オフィスアワーについては、規程どおり設けて、授業終了後の教室や非常勤講師控室で学生からの質問を受け付けた。とくに期末試験直前の質問が多かった。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>(1) 今年度に引き続き、科目名「簿記会計学Ⅰ」では日本商工会議所簿記検定試験3級の受検を念頭に置きながら授業を進めていく。 (2) 理解が遅れている履修者に対しては、高校ですでに簿記を学習している履修者から教えてもらうといった学生同士の「相互学習」を促す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

昨年度の授業評価報告書では、現場ですぐに使えるように演奏力・歌唱力を向上させることが課題に挙がっていた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(1) 実技は具体的な練習方法を伝え、練習の大切さを意識させる。(2) レッスンでコミュニケーションをとりながら、練習の大切さを伝える。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

(1) 演奏が難しいところは部分的な練習方法をその場で練習させて伝えることを心掛けた。(2) 練習の大切さをレッスンの中で伝えるよう心掛けた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1年生の全体的な満足度が低いので、高くなるように指導法を考えたい。

学生による授業評価アンケートの結果

| 科目名 | 対象学生 | 内容やレベル | 教員の教え方 | 学生の学習意欲 | 学生の理解度 | 授業外学修時間 | 全体的な満足度 |
|-----------|------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 保育と音楽表現 | 19Y | 5.0 | 4.8 | 4.7 | 4.8 | 125.0分 | 4.8 |
| 子どもの歌と伴奏法 | 20Y | 4.6 | 4.4 | 4.6 | 4.6 | 90.0分 | 4.6 |

| 科目名 | 対象学生 | 必修選択 | 履修者数 | 平均点 | 評 価 | | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| | | | | | S | | A | | B | | C | | F | | W (脱落) | |
| | | | | | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % | 人 | % |
| データがありません | | | | | | | | | | | | | | | | |

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後、質問がある場合はその場でできる限り対応している。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

(1) 具体的な練習方法を伝え、練習の大切さを意識させる。(2) レッスンでコミュニケーションを取りながら、練習の大切さを伝える。